

信濃町の埋蔵文化財

仲町遺跡

(個人住宅地点)ほか

発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半と平安時代の遺跡—



2000

長野県信濃町教育委員会

仲町遺跡

(個人住宅地点)ほか

発掘調査報告書

—後期旧石器時代前半と平安時代の遺跡—

2000

長野県信濃町教育委員会

目次

例　　言	
目　　次	
I 調査の経過	1
1 平成11年度信濃町発掘調査の概要と調査体制	1
2 調査経過	1
II 仲町遺跡（塙本節子氏住宅地点）	1
1 発掘の概要と経過	1
2 発掘地の地形と地質	1
3 遺構・遺物の出土状況	1
4 旧石器時代	1
1) 遺物の分布	1
2) 石器	1
5 繩文時代	1
6 平安時代	1
1) 遺構	1
2) 遺物	1
III 仲町遺跡（その他の個人住宅地点）	1
1 佐藤範征氏住宅地点	1
2 大野健氏住宅地点	1
3 池田義一氏住宅地点	1
4 池田清孝氏住宅地点	1
5 その他	1
IV 東裏遺跡（中村正式氏住宅地点）	1
1 発掘の概要	1
2 旧石器時代の出土遺物	1
3 成果	1
V 試掘調査	1
1 小丸山公園遺跡	1
2 針ノ木遺跡	1
3 東裏遺跡	1
4 大久保A遺跡	1
VI まとめ	1
文　　献	1
写真図版	1
英文要旨	1
報告書抄録	1

例　　言

1. 本書は平成11年度の仲町遺跡、東裏遺跡など信濃町内における遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国および県からの補助金交付を受けた信濃町教育委員会が、平成11年4月6日から平成12年3月20日にかけて実施した。整理作業は、主に12月～3月におこなった。
3. 本書は、調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
4. 本書作成に至る分担は、下記のとおりである。
遺物・記録の整理・実測
今井美枝子・万場弘子・長谷川悦子・横山真理子

藤田桂子・佐藤道子・佐藤ユミ子・内田陽一郎・
川端結花

編集補助 佐藤ユミ子

執筆 中村由克・内田陽一郎（Ⅱ章4-2、
Ⅳ章4-2）

編集 中村由克

5. 調査によってえられた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。

出土資料の注記番号は、次のとおりである。

仲町遺跡（塙本氏住宅地点） 99 N K

東裏遺跡 99 H U

I 調査の経過

1 平成11年度信濃町発掘調査の概要と調査体制（図1、表1）

11年度、信濃町教育委員会では、国道18号線野尻バイパス線の建設に伴う個人住宅の建設が相次いだため、埋蔵文化財の発掘調査が多く実施された。本年度は、4月当初より11月まで、1班体制で発掘に当たったが、現場が多くあったので、2遺跡を同時期に調査せざるを得ないこともあった。引き続き3月まで整理作業をおこなった。今年度におこなった主な発掘調査は、表1のとおりである。

上山桑A遺跡の県道用地内の発掘調査は、信濃町教育委員会の直管事業とし、組織は以下のとおりである。

発掘調査（平成11年度）

調査主体者 信濃町教育委員会

教育長 小林 豊雄

事務局 総務教育課 課長 北村 敦博

係長 北村 恭一

係 池田 昭博

調査担当者 中村 由克

担当職員 池田 昭博

調査参加者：青柳 成子、麻田 紀子、池田か己子、

今井美枝子、小日向キヨ子、荻原 敏藏、

落合 春人、金子シズイ、金子 房江、

木村キミ子、北村フクコ、駒村 幸男、

小林 正義、小林 栄子、佐藤 道子、

佐藤美佐江、佐藤ユミ子、佐藤 義信、

渋沢ユキ子、閑塙 恒、高橋 是清、

竹内 良子、竹内ユキ子、長谷川悦子、

万場 弘美、東 貢、平塚せつ子、

深沢 政雄、松岡さとみ、松木由美子、

油井 京子

整理作業参加者

佐藤ユミ子（土器、石器実測、図版作成、叢集補助）

今井美枝子（土器、石器、トレース、図版作成）

長谷川悦子（土器、石器、図版作成）

万場 弘美（土器、石器）

横山真理子（土器、石器）

藤田桂子（石器実測、図版作成）

発掘調査、整理、報告書作成では、次の方々より多くご指導、ご援助をいただいた。

発掘・整理：市川 桂子、小笠原永隆、大竹 憲昭、
川端 結花、近藤 洋一、谷 和隆、
中村 敦子、渡辺 哲也、伊藤 友久、
白田 広之、小林 秀夫、田中正次郎、
土屋 積、鶴田 典昭、中島 英子、
西山 克己、山崎まゆみ、
Andren David Eliot（英文校閲）

2 調査経過

平成11年度

【仲町遺跡池田義一氏住宅地点】

4月6日 試掘調査の開始

5月25～26日 試掘調査

【仲町遺跡佐藤範征氏住宅地点】

4月19日 表土剥ぎ

4月20日 発掘作業の開始

4月23日 発掘場所の拡大

4月30日 測量作業の開始

5月11日 発掘調査の終了

【仲町遺跡塙本節子氏住宅地点】

4月26日 発掘調査の開始

4月30日 平安時代住居址を確認

5月6日 発掘場所の拡大

5月7日 測量作業の開始

5月13日 平安時代住居址の写真撮影

5月17日 野尻湖小学校6年生の体験学習で発掘に

参加

5月23日 現地説明会

5月24日 5号住居址の発掘作業開始

6月2日 5号住居址の写真撮影

6月3日 発掘調査の終了

【仲町遺跡池田清孝氏住宅地点】

6月21～22日 試掘調査

【仲町遺跡大野健氏住宅地点】

6月28日 発掘調査の開始

7月1日 平板測量開始

7月2日	写真撮影、埋め戻し	5月12日～13日	試掘調査
[仲町遺跡野口一郎氏車庫地点]		[東裏遺跡中村正武氏住宅地点]	
10月8日	試掘調査	5月17日	発掘調査の開始
仲町遺跡佐藤志利氏車庫地点		5月25日	発掘作業の終了
10月26, 29日	試掘調査	6月1日	測量作業に着手
[大久保A遺跡井上氏住宅地点]		6月4日	発掘調査の終了

II 仲町遺跡（塙本氏住宅地点）

1 発掘の概要と経過（図2）

仲町遺跡は信濃町野尻地区大字野尻のほぼ中心部に所在する。国道18号線および旧北国街道にそった北側に傾斜する丘陵上の宅地、畑地、山林に広がる。仲町遺跡では、旧石器時代の陸上の生活面をもとめた発掘調査が、昭和49（1974）年より野尻湖発掘調査団により実施されている。また、昭和52（1977）年に水道管敷設工事、平成6（1994）年に下水道工事に伴い発掘調査がおこなわれている。平成11年度からは、国道18号線バイパス工事に伴い、長野県埋蔵文化財センターと信濃町教育委員会により、発掘調査がはじまっている。

この遺跡は、国道18号線から西側に幅約200m、北北東～南南西に900mの範囲で、丘陵の上に広がっている。旧石器時代・縄文時代草創期・縄文早期～後期・平安時代・中世・近世とつながる野尻湖畔では拠点的な遺跡である。

2 発掘地の地形と地質（図4）

仲町丘陵の標高約660m以上のところでは、水成の下部野尻湖層や賀ノ木層などの上に、風成の野尻ローム層が厚く堆積している。塙本氏住宅地点は標高680mの北向きの緩斜面の丘陵頂部に位置する。

発掘地では、下位より6cm+の上部野尻ローム層（VI層）、15cmの黒色帶（Vb・c層）、17cmの上II最下部（Va層）、13cmの上II下部～上部（IV層）、20cmの耕土（I層）がみられる。上II上部より以上の地層が削平されてなくなっており、耕土が直接覆っている状況が観察された。

3 遺構・遺物の出土状況（図3、図5、表2～表4）

発掘地内には、平安時代の竪穴住居址2軒が検出され、また時代が特定されない柱穴などピットが多数みつかった。これらは、下位の旧石器時代包含層を破壊しており、住居址の中にも旧石器時代の遺物が多数混入していた。

旧石器時代の石器類は、ほぼ発掘地の全面に広がっていたが、平安時代の土器は遺構の中に集中して出土した。

4 旧石器時代

1) 遺物の分布（図6、図12）

石器、剥片などの旧石器時代の遺物は、B1、B2グリッドに分布の中心があり、これを中心にA1、A2グリッドなど南北15m、東西10mほどの範囲に遺物が広がっている。

2) 石器（図7～図10、表5、表6）

【石刃石器群】

主要な遺物は、ナイフ形石器3点、スクレイバー1点、石刃10点、石核1点などである。

ナイフ形石器：ナイフ形石器は石刃を素材とし、打面部を基部として基部の二側縁と先端部の一側縁に刃溝し加工が施され、素材剥片の打面が残るもの（1）、その基部の折損品（2, 3）がある。石材は珪質凝灰質頁岩（1）、珪質頁岩（2）、黒曜石（3）である。

1は石刃を素材とし打面部を基部として、二側縁に腹面から刃溝し加工が施され、先端部は背腹両面から剥離角90度前後の急角度の刃溝し加工が施されている。2は

石刃を素材とし、基部右側縁は腹面から、左側縁は背面から刃潰し加工が施されるもので、先端を折損する。3は石刃を素材とし、基部二側縁に腹面から刃潰し加工が施されるものである。

スクレイパー：4はやや縦長で厚手の剥片の末端部に二次加工が施されたエンド・スクレイパーである。石材は無斑晶質安山岩である。

石刃：5～14は石刃である。8、9は背面剥離面に腹面の剥離方向と逆方向の剥離面があり、両設打面の石核から剥離されたもので、11は後付き石刃である。5～8は打面縁調整が入念に施され、打面は比較的小さな单剥離面打面であり、9は打面を折損する。10～14は打面が比較的大きな双面打面である。15、16はやや幅広の縦長剥片であるが、背面剥離面の剥離方向等を見る限り、5～14の石刃を剥離する過程で剥離されたものと考えられる。石材は珪質凝灰質頁岩（5～9、16）、珪質頁岩（10,11）、黒曜石（12）、チャート（13）、無斑晶質安山岩（14、15）である。

石核：17は正面図の上面に打面を固定して縦長剥片を剥離した石核で、左側縁には石核調整剥離と考えられる剥離面がある。正面図の下面からも裏面側に向て縦長剥片を剥離した剥離面が見られ、石刃石核の最終形態と考えられる。石材は珪質凝灰質頁岩である。

[局部磨製石斧と台形石器の石器群]

主要な石器は局部磨製石斧2点と台形石器11点、スクレイパー3点、ヘラ形石器1点、石核5点である。

局部磨製石斧：18は蛇紋岩の剥片を素材として二側縁に二次加工が施され、一端に背腹両面に研磨を施し、弧状の刃部を作り出されているもので、比較的小型なものである。19は左側縁部を古く折損する。石材は 無斑晶質安山岩である。

台形石器：台形石器は主に剥片の鋭い一侧縁を残して刃部とし、主に剥片の打面部と末端部に二次加工が施し基部を作り出したもので、器軸に対して刃部が斜めになるもの（20～23）と平らになるもの（24～30）に大きく分けられる。石材は珪質凝灰岩（20、27）、鉄石英（21）、珪質頁岩（22）、チャート（23、28、29）、黒曜石（24,25,30）、無斑晶質安山岩（26）である。

20～23は器軸に対して刃部が斜めになるもので、二次加工は腹面を打面として剥離角90度前後の刃潰し状の加工が施されている。24～30は器軸に対して刃部が平らに

なるもので、二次加工は急斜な刃潰し状の剥離、折り取り、器面内面に入り込む平坦な剥離がみられ、一個体で多様な二次加工が複合的に施されたものもある。20～27は基端の幅が約1cm弱になるように整形されており、同一形態の柄に装着することを意識した基部形態をもつが、28、29はやや異なるため別器種とも考えられる。30は右側縁と左側縁の一部に剥離痕が見られるで、不定形な形状である。

ペン先形ナイフ形石器：33は剥片の側縁と打面の一部に二次加工が施されたペン先形のナイフ形石器である。黒曜石製である。

スクレイパー：剥片の側縁に部分的に二次加工が施されたものである。石材は姫川以西の飛驒外縁帯古生代チャート（31,32）、緑色凝灰岩（34）である。

31は縦長剥片の右側縁に腹面から急斜な角度の二次加工が施されたもので、左側縁にも微細な剥離痕が観察される。上端を折損する。32は貝殻状の剥片の右側縁に二次加工が施されたものである。34は背面右側縁に二次加工が施されている。

ヘラ形石器：35は剥片の打面部から側縁にかけて主に腹面に粗い平坦な剥離で尖頭状の基部が作り出されたもので、末端部には背面に粗い剥離により鋸歯状を呈している。無斑晶質安山岩製である。

剥片：36、37は剥片の接合例である。長幅比が1:1前後の剥片で、36は平坦打面、37は標打面である。石材は珪質凝灰岩（36）、王龍（37）である。

石核：石核は最終形態であるが、概ね長幅比が1:1前後の剥片を剥離した痕跡がみられる。打面調整等はおこなわれていない。39～42は剥片素材の石核である。石材はチャート（38,41）、無斑晶質安山岩（39）、黒曜石（40）、珪質凝灰岩（42）である。

39は剥片の側縁に背腹両面に交互に剥片剥離したものである。40は自然面をもつ剥片を素材とし、周辺から貝殻状剥片を剥離した石核で、その一端に挿入した刃部をもつノッチに転用している。41、42は厚手の剥片の腹面に一枚の貝殻状剥片を剥離した石核である。42は接合資料である。

接合資料（写真図版）：

43は剥片が2点接合する小形の石核で、写真上面に打面を固定して剥片を剥離した後、打面を右側縁に移し裏側に剥片を剥離して、剥片剥離作業を終えている。

44は長幅比が1:1前後の小形の剥片2点が接合するもので、43と同一母岩である。

45は石核に剥片1点が接合するもので、打面と作業面を入れ替えるながら長幅比が1:1前後の剥片を剥離している。

46は剥片8点が接合するものである。上面に接合する打面調整剥片と考えられるもの1点以外は、主に上面を打面として剥離された剥片である。剥離された剥片は不定形である。

47は石核に剥片1点が接合するもので、石核は主に上面に打面を設定して、長幅比が1:1前後の小形の具縫状剥片を剥離している。接合した剥片は打面調整剥片と思われる。

48は中形の剥片2点が接合するもので、1点は上下両端を欠損する。

49は大形の板状剥片が4以上に折れたもので、そのうちの3点が接合している。

50は縱割れをおこした剥片が接合したもの。51は剥片2点が接合するものの52は折れた剥片が接合するもの。

53、54は折れた剥片が接合したもので、53は1つの剥片が少なくとも3点以上に折れたものの末端部である。

石材は珪質凝灰質頁岩(43~45)、灰色チャート(46, 47)、無斑晶質安山岩(48~54)である。

5 繩文時代(図6、図11、図23、表9)

繩文時代の土器は33点ある。いずれも小破片である。1~9は、繩文時代早期後半~末の条痕文系土器である。1~5は表面に細密な単節の繩文を施し、2~5には内面に条痕調整がみられる。6は粗い条痕文がみられる。7、9は単節LRの繩文が施される。8は絡条体圧痕文土器である。いずれも赤褐色ないし暗灰色を呈し、繊維を有~や多く含んでいる。条痕文土器の後半段階のもので、早期末の絡条体圧痕文土器の一類の資料だと思われる。6は条痕文土器の前半段階のものと推定される。

10は早期後半の沈線文土器の口縁部である。口唇に小さい半截竹管による刺突列が施されている。土器外表面ははがれていて、文様は不明である。外そぎの口縁部形態と刺突文の感じから、田戸式併行のものと推定される。

11(図11)は、草創期の爪形文土器である。1.9.の小

片であるが、焼成は良好で保存がいい。器壁は5.6~6.4mmで、爪の大きさは長さ7.8mm、幅2.3mmである。暗褐色で、砂粒は有~やや多く、石英が多く、長石、黒雲母が含まれる。爪形文はやや斜めに蜜に施されている。

6 平安時代

1) 遺構(図3、図13~図15)

仲町遺跡では、1991年の第6回野尻湖陸上発掘、仲町II区R~T30・31グリッドで、重複した2軒の平安時代住居址が検出されている。このため、今回の住居址を東側のものより3号、4号とする。

3号住居址: 3号住居址は発掘区域の東壁にかかる検出されたため、一部は発掘できなかった。南北4.7m、東西4m以上である。北北東~南南西方向のほぼ方形のプランで、竪は北西端にあったが、破壊されており保存はよくなかった。確認面からの床面の深さは、平均23~32cmであった。住居址内には10個の柱穴と思われるビットがあり、深さは35~20cmであった。

4号住居址: 4号住居址は発掘区域の南部に検出され、ほぼ北東~南西方向の方形のプランである。竪は南西端にあったが、破壊されており保存はよくなかった。確認面からの床面の深さは、平均14~23cmであった。住居址内には7個の柱穴と思われるビットがあり、深さは40~20cmであった。

2) 遺物(図16~図22、表7、表8)

平安時代の遺物は1,181点あり、それらはほとんどが3号、4号住居址から出土した。土器は接合して器形わかる3分の1以上の破片について観察表を作成した。ただし、特徴のある遺物については小片でも付け加えた。土器の分類は「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4~松本市内その1~総論編」の「古代の土器」(長野県教育委員会、1990)にしたがった。

A 3号住居址出土の土器

坏: 軟質須恵器と黒色土器の坏がある。軟質須恵器は5点あり、灰白色あるいは灰黄色で焼きが弱い。ロクロ調整で、底部は回転糸切である。法量は、口径13.2~14cm、器高3.5~4cm、底径5.2~6cmで、坏Aに分類される。

黒色土器は4点あり、ロクロ調整の土器の内面をヘラミガキし、黒色処理したものである。内面だけに黒色

処理が施される黒色土器Aである。底部は回転糸切未調整のもの(11)と、回転糸切後ヘラ削りを施すもの(10、13)がある。法量は口径12.6~15.4cm、器高3.9~4.6cm、底径5.6cmで、坏Aに分類される。

椀：黒色土器の椀がある。黒色土器は2点で、底部のみの破片である。内面をヘラミガキし黒色処理したもので、底部には高台をつけナデ調整した椀である。底径は6~6.2cmである。

皿：黒色土器の皿がある。黒色土器は2点で、内面をヘラミガキし黒色処理したもので、底部には高台をつけナデ調整した皿である。法量は、口径11.3~12.8cm、器高2.6cm、底径5.6~6.6cmである。

小型壺：土師器の壺には、長胴壺と小型壺がある。おおむね口径15cm以下のものを小型壺という。すべてロクロ調整である。底部が残っているものは5点で、回転糸切未調整のもの(27、28)と回転糸切後、若干調整を施しているもの(26、29)がある。法量は口径13~15.8cmである。

長胴壺：口径22.8~24.2cmの土師器の長胴壺がある。ロクロ壺である。18・19の内面はカキ目調整している。18の外面の下半部は継のヘラ削りが施されている。20の内面はカキ目調整をしている。

須恵器長頸壺：6は長頸壺のやや細く長い頸部の破片である。

灰釉陶器：長頸壺の口縁部と器種不明の底部破片2点がある。

灯明皿：30は土師器の灯明皿で、ロクロ調整後、外面はヘラ削りしている。口縁には黒色付着物が厚くついている。口径6.1cm、器高2.2cm、底径2.9cmと小ぶりのものである。

B 4号住居址出土の土器

坏：軟質須恵器と黒色土器の坏がある。軟質須恵器は3点あり、灰白色あるいは灰黄色で焼きが弱い。ロクロ調整で、底部は回転糸切である。法量は、口径13.3~14cm、器高3.7~4cm、底径5.9~6.3cmで、坏Aに分類される。

黒色土器は6点あり、ロクロ調整の土師器の内面をヘラミガキし、黒色処理したものである。内面だけに黒色処理が施される黒色土器Aである。底部は回転糸切未調整が多く、1点(39)回転糸切後ヘラ削りを施している。法量は口径12~15cm、器高4.1~5.1cm、底径5.3~6.3cmで、坏Aに分類される。

小型壺：土師器の小型壺がある。ロクロ調整である。底部が残っている43は回転糸切未調整である。42の口径は17.2cmである。

須恵器壺および壺：34は壺と思われる底部である。35は大型の壺の胴部の破片である。

C 遺構外の土器

坏：軟質須恵器の坏である。ロクロ調整で、底部は回転糸切である。法量は、口径13.8cm、器高3.6cm、底径6cmで、坏Aに分類される。

D 墨書き土器

墨書き土器は2点出土しているが、文字は判読できない。45は3号住居址出土の黒色土器で、皿の可能性がある。46は4号住居址出土の軟質須恵器である。

E 土錐

3号、4号住居址から10点の土錐が出土している。管状土錐で、法量は長さ3.5~6.3cmで、重量は3.9~12.0gである。仲町遺跡1号・2号住居址では7点の管状土錐が出土し、大型のI、中間のII、小型で細型管状のIIIの3タイプに区分している。紡錘形を呈する48、50、51、53はIIに、それ以外はIIIの形状に属するが、長さや重量はII、IIIのタイプが連続的に重なり合っており、明確にタイプ分けはできない。

F 住居址出土の土器の所属時期

3号住居址の主な土器は、軟質須恵器坏5点、黒色土器坏4点、黒色土器碗2点、黒色土器皿2点、小型壺9点、長胴壺3点、須恵器長頸壺1点、灰釉陶器3点である。坏Aの土器構成は、点数が少ないが軟質須恵器56%、黒色土器44%である。

4号住居址の主な土器は、軟質須恵器坏3点、黒色土器坏6点、小型壺2点、須恵器壺・壺2点である。坏Aの土器構成は、点数が少ないが軟質須恵器33%、黒色土器67%である。

これらの遺構出土の土器は、須恵器や土師器が見られず、軟質須恵器と黒色土器が多く含まれることが共通した特徴であり、ほぼ近い時期のものと考えられる。これらは長野県教育委員会(1990)の食器の15期区分にしたがえば、ともに7期末~8期のもの、800年代半の後半と推定される。

信濃町内でこれまでに報告された平安時代遺跡では、仲町遺跡1・2号住居址、大道下遺跡(第4次)1・3・4号住居址とはほぼ近い年代に属すと思われる。

III 仲町遺跡(その他の個人住宅地点) (図24、表13)

1 佐藤範征氏住宅地点 (図25~図27、表10)

1) 発掘の概要

佐藤範征氏住宅地点は、仲町遺跡の南部に位置し、建設省除雪ステーションの北向かいにある。佐藤範征氏が住宅兼店舗を増築するのに伴い、西側の増築部分の発掘調査を、4月20日から5月11日までおこなった。

2) 発掘地の地形と地質、遺物の出土状況

佐藤範征氏住宅地点は、仲町丘陵の高くなつた地点で、発掘地の丘陵の頂部にあたる標高 685m である。発掘地は国道に直行する北北西-南南東方向に幅 5m、長さ 14m の範囲である。

この付近には厚いローム層が分布しており、後期更新世の野尻ローム層と完新世の柏原黒色火山灰層が地表部を覆っている。発掘地では、30cm の表土（耕土：I 層）の下に 15cm の柏原黒色火山灰層（II 層）が西端に部分的にあり、他ではモヤ上部（III 層）まで削平され埋土が覆っている。

モヤ（III 層）は上下に 2 分でき、それぞれ約 5~10cm である。その下には、15~22cm の上 II 上部・下部（IV 层）、9~18cm の上 II 最下部（Va 層）、5cm+ の黒色帶（Vb-c 層）がみられた。ここでは、上 II 最下部は色調の違いから上下に 2 分できた。又カ I 火山灰（姶良丹沢火山灰：AT）は上部に包含される。

縄文時代の土器は比較的に国道よりにまばらに出土した。旧石器時代の石器は、発掘地の北側に分布の中心が認められた。ブロックの一部分にあたると思われる。58 点の遺物が出土した。

3) 出土遺物

1・2 はナイフ形石器である。1 は凝灰質頁岩製のやや厚手の石刃を素材として、基部の両側縁約 1/2 に刃溝し加工が施された基部調整のナイフ形石器である。打面を残している。2 は凝灰岩製の石刃を素材とし、1 側縁の全辺と他方の 1/2 に刃溝し加工が施された二側縁調整のナイフ形石器である。

接合した 10・47 と 56 は、横長剥片である。10・47 は無斑晶質安山岩製で、背面には 3 面ほどの剥離面がみられ、しっかりとした底面を有する。側面から見ると、翼

状剥片の形態を呈している。56 は白色凝灰岩製で、背面に 1 面の剥離面があり、しっかりとした底面を有する。26 は 56 と同一母岩と思われる縱長剥片である。

無斑晶質安山岩製の 13、中生代珪質頁岩製の 25 は石刃であり、広い無調整打面をもつや厚手の石刃である。9、24 は無斑晶質安山岩製の剥片である。

29、32、33、36、43 は、縄文時代早期後半の条痕文系土器と思われる。繊維を少ない~やや多く含むが、いずれも小片で文様は不明である。

4) 成果

佐藤範征氏住宅地点の石器の多くは、上 II 最下部（Va 層）から上 II 下部（IV 层下部）の文化層のものと思われる。打面調整をほとんどおこなわない厚手の石刃を素材とする基部調整のナイフ形石器は、清明台遺跡で最初に確認されたもので、この層位を代表する石器である。今回、このナイフ形石器といっしょに横長剥片がえられた。2 点のみであるが、底面をしっかりと有すること、翼状剥片の形態を呈することなど、仲町遺跡、上ノ原遺跡、西岡 A 遺跡などにみられる上 II 上部（IV 层上部）文化層の横剥ぎの石器群とは異なる特徴である。むしろ、この 2 点の横長剥片は新潟県櫛口遺跡や御潤上遺跡の横剥ぎ石器群と共通するものと思われる。野尻湖遺跡群でも、層位的により古く、本来の瀬戸内技法に近い石器群の存在が指摘されている（谷、1996）が、今回の出土例はこれを補強するものと思われる。

2 大野 健氏住宅地点 (図28、表11)

1) 発掘の概要

塙本氏住宅地点よりすこし東側の国道沿いの丘陵の頂部よりやや東の地点で、車庫の基礎部分を中心に手掘りで試掘調査をおこなった。

発掘地ではローム層などが厚く堆積しており、上位より 28cm の耕土（I 層）、23~30cm の柏原黒色火山灰層、17cm のモヤ（III 层）、17cm の上 II 上部（IV 层上部）、20cm の上 II 下部（IV 层下部）、10cm の上 II 最下部（Va 層）、18cm の黒色帶（Vb-c 層）などがみられた。

2) 出土遺物と成果

上 II 最下部文化層（Va 層）から 5 の無斑晶質安山岩製

のナイフ形石器は、石刃の基部両側縁と先端の片側縁に加工が施され、打面を残す、基部調整のナイフ形石器である。4はチャート製の石核である。6は白色凝灰岩製の石刃で、打面側の側面に微細な調整が施された基部加工剥片である。3は無斑晶質安山岩製の石刃末端部、21は剥片である。

縄文土器が2点あり、15は口縁部で竹管文による沈線文、連続爪形文が施された土器である。19は単節RLの縄文が施されていた土器である。いづれも縦維は入らない。縄文前期後半の諸磽b式併行のものと推定される。

2区画の試掘をおこなったが、23点の遺物の出土があり、密度の濃い分布状況であった。包含層が深く、工事では破壊されない深度であったので、試掘のみで終了した。

3 池田義一氏住宅地点（図29）

1) 発掘の概要

坂本氏住宅地点よりすこし南よりの国道沿いの丘陵の頂部よりやや西よりの地点で、住宅の基礎部分を中心に手掘りで試掘調査をおこなった。

発掘地では、上位より27~35cmの耕土（I層）、18cmの柏原黒色火山灰層（II層）、5~8cmのモヤ（III層）、16cm+の上II上部・下部（IV層）がみられた。

2) 出土遺物と成果

土器、剥片、礫など13点出土したが、分布は散漫で

あったため、基礎部分の試掘調査だけで終了した。

4 池田清孝氏住宅地点（図30）

1) 発掘の概要

坂本氏住宅地点よりすこし北方の旧国道（北国街道）沿いの丘陵の頂部の地点で、住宅の基礎部分を中心に手掘りで試掘調査をおこなった。

発掘地では、上位より21cmの耕土（I層）、3cmのモヤ（II層）、28cmの上II上部・下部（IV層）、15cmの上II最下部（Va層）、12cmの黒色帯（Vb-c層）などがみられた。

2) 出土遺物と成果

土器、剥片、礫、近現代陶磁器など12点出土したが、分布は散漫であったため、基礎部分の試掘調査だけで終了した。

5 その他の調査の概要（図26、図31）

仲町遺跡内では、野口一郎氏車庫および佐藤志利氏車庫の建設に先立ち、予定地の試掘調査をおこなった。野口氏住宅地点では、石器3点、土器2点が出土したが、遺物の分布が散漫だったので、遺跡の中心から外れていると判断した。

佐藤志利氏車庫地点では、石器5点、土器1点が出土したが、遺物の分布が散漫だったので、遺跡の中心から外れていると判断した。

IV 東裏遺跡(中村正武氏住宅地点)（図32~図35、表12）

1 発掘の概要

東裏遺跡は柏原東部の伊勢見山の麓に北西~南東方向に、幅350m、長さ1,300mにおよぶ面積の広い遺跡である。東裏遺跡は、平成4（1992）年~6（1994）年に町道と特別養護老人ホーム、そして8（1996）年、9（1997）年に町道の建設で信濃町教育委員会が発掘をおこない、また、平成5（1993）年~平成7（1995）年に長野県埋蔵文化財センターによって高速道路用地内の発掘調査がおこなわれている。

中村氏住宅地点は、上信越自動車道と特養「おらが庵」

の間の畑地に建設されることになり、事前の発掘調査をおこなった。発掘は基礎部分を中心に手掘りで進められた。

東裏遺跡の発掘地付近では、柏原黒色火山灰層（II層）、上部野尻ローム層IIの黄褐色ローム層（IV層上部）の下には、シルト層、礫層などの水成層が堆積していた。石器は、礫層以上の地層から出土した。

遺物は発掘地に広く散在して比較的密度が濃く出土したが、分布の集中は確認できなかった。北側のグリッドには遺物が少なかった。

2 旧石器時代の出土遺物

[黄褐色ローム層]

ナイフ形石器：1は珪質凝灰質頁岩製の石刃を素材とし、打面部と末端部の腹面の二側縁に、やや平坦な二次加工が施されて両端を尖らせた基部調整のナイフ形石器である。2は珪質凝灰岩製の剥片の一側縁に急斜な角度の二次加工が施されたナイフ形石器で、基部を折損する。

[濃褐色ローム質シルト層]

ナイフ形石器：3は黒曜石製の寸詰まり剥片もしくは横長剥片を横向きに用い、背面の打面側と末端の一部にやや粗い刃溝し加工が施された、小形の二側縁加工のナイフ形石器である。基部がやや内湾する形態である。

石刃：4は單剥離面打面の黒曜石製石刃である。

石核：5は無斑晶質安山岩製の石核である。剥片素材で主要剥離面側に打面を固定し、両側縁にそって打点を横に移動させて横長剥片を剥離した残核である。6は石核と剥片1点の接合資料である。石材は赤色チャートである。石核は最終的に上面を打面として数枚のやや短い縦長剥片を剥がしたもので、接合した剥片は節理面で縱に2分された片側である。剥片は上位のローム層出土である。

[シルト層]

ナイフ形石器：7は石刃の末端部の二側縁に刃溝し加工がおこなわれたナイフ形石器の基部と思われるものである。先端側は折損している。石材は珪質頁岩である。

台形石器：8は正面の二側縁に平坦な二次加工で尖った基部を作り出し、やや弓なりの形の刃部をもつ台形石器である。石材は無斑晶質安山岩である。9、10は貝殻状剥片の側縁から末端に微細な調整をおこない基部とする貝殻状刃器である。打面と末端のヒンジフラクチャーを石器の側縁として利用している。9の刃部には使用によると思われる微細な剥離痕がみられる。10の刃部はわずかに折れており、との状況は観察できない。11は正面下端に裏面から二次加工が施され、ゆるやかに大きく開いた基部を形成している台形石器である。左右両側縁にはクサビ形石器にみられるつぶれ状の平坦な小剥離痕が観察される。石材は無斑晶質安山岩である。

錐器：12は珪質凝灰質頁岩製の剥片を素材とし、背面側

に5面の大きな剥離で鋸歯状の突出部を作り出し、微細な加工で仕上げた錐器である。図の下端は折損している。

剥片：13は黒曜石製の縦長剥片で、打面を折損している。14は珪質凝灰質頁岩製の幅広な縦長剥片である。打面は単剥離面打面である。15は珪質凝灰岩製の幅広な縦長剥片であり、腹面の左側縁には微細剥離痕がみられる。打面は単剥離面打面である。

石核：16は黒曜石製の石核で、打面と作業面を頻繁に転移する石核で、20と接合する。

[礫層]

彫器：17は珪質頁岩製の幅広な縦長剥片を素材とし、末端部に小さなファシットをもつ彫器である。主剥離面の側縁と末端には微細な剥離痕がみられる。打面は単剥離面打面である。

台形石器：18は寸詰まりの剥片を素材としやや角度の大きな剥片の末端部を刃部とする台形石器である。正面の右側縁に微細な二次加工が施され、左側縁は折断されている。石材は黒曜石である。

剥片：19はチャート製の幅広寸詰まりの小剥片であり、打面は単剥離面打面である。20は黒曜石製の石核で、最終的にやや小形の寸詰まり剥片を剥離している。16と接合する。21は無斑晶質安山岩製の石核で、厚手の分割剥片を素材とし、長幅比1:1からやや横長傾向の寸詰まり剥片を剥離している。22は分割礫もしくは大形の剥片を素材とした石核で、正面の薄手の幅広剥片とその作業面の右側縁を打面とする寸詰まりの剥片を剥離している。石材は無斑晶質安山岩である。

[柏原黒色火山灰層]

石核：23は黒曜石の角礫を素材とする石核で、小さな横長剥片を剥いでいる。

剥片：24は出土層位不明の黒曜石製の小形の横長剥片である。形状からは、23,24ともに下位のシルト層に確認されている貝殻状刃器の製作に関連した資料だと推測される。

3 成 果

東裏遺跡中村氏住宅地点では、5層準に別れて遺物が出土したが、これらは1ないし2時期のものと推定される。最も多いのは、7・8の台形石器、3のベン先形ナ

イフ形石器、9・10の貝殻状刃器などに代表される後期旧石器時代初期の石器群である。多くの石核、剥片はこれらに関連した資料だと思われる。風成層では、黒色帶文化層（V b層）を中心に、上Ⅱ最下部文化層（Va層）までにえられているものである。

一番上位の黄褐色ローム層には、石刃製の基部加工ナイフ形石器が出土している。上Ⅱ上部文化層（IV層上部）

に一般的な杉久保系のナイフ形石器と比べると、上下両端の腹面側に平坦な加工が施されている点が、ほかではみられない特徴である。

高速道地点では、やはり水成層中より後期旧石器時代前半期の遺物が多く出土しており、それらと関連する資料だと思われる。

V 試掘調査

1 小丸山公園遺跡

柏原の小丸山公園遺跡では、信濃町が公園整備で舗道を設置する計画があったので、遺跡の範囲確認のための試掘調査を、11月29、30日におこなった。その結果、2点の土器等がえられたが、遺跡の中心部から外れていると判断された。

2 針ノ木遺跡

富農の針ノ木遺跡では、信濃町が町道柏原水穴線の改良工事の計画があったので、予定地まで遺跡が広がるかどうかの確認をする試掘調査を、5月26日におこなった。その結果、出土遺物はなく、この地点まで遺跡は広がらないことが確認された。

3 東裏遺跡

柏原の東裏遺跡では、信濃町が町役場排水処理設備を設置する計画があったので、予定地まで遺跡が広がるかどうかを確認するために、試掘調査を8月19、20日におこなった。出土遺物はなく、この地点まで遺跡は広がらないことが確認された。

4 大久保A遺跡

大久保A遺跡では、個人住宅が建設されることになり、この地点まで遺跡が広がるかどうかを確認するために、試掘調査を5月12、13日におこなった。出土遺物はなく、この地点まで遺跡は広がらないことが確認された。

VI まとめ

平成11年度は国道18号線野尻バイパス線の建設工事をひかえ、仲町遺跡を中心に個人住宅建設が多くあり、そのための発掘調査や試掘調査が多数おこなわれた。これらの調査によって、以下のような成果を得た。

- 1 平成11年度の信濃町内の発掘調査では、それぞれ狭い面積の調査ではあったが、旧石器時代をはじめ各種の時代の文化層が確認された。
- 2 なかでも仲町遺跡の塙本氏住宅地点は大きな成果があった。旧石器時代では、後期旧石器時代前半の局部磨製石斧と台形石器の石器群がまとまって出土したことである。また、これより若干後出の基部調整ナイフ形石器と石刃の石器群が出土した。

- 3 仲町遺跡A 2グリッドからは、縄文時代草創期の爪形文土器が出土した。小片であるが、本遺跡ではこれまで別地点で爪形文土器や隆線文土器などが出土しており、量的には少ない縄文草創期の貴重な資料を追加した。
- 4 また、2軒の平安時代住居址が検出され、1,145点の軟質須恵器、黒色土器、土師器などが出土し、800年代後半のものであることが判明した。
- 5 仲町遺跡佐藤氏住宅地点と大野氏車庫地点では、後期旧石器時代前半の基部調整ナイフ形石器の石器群が出土した。佐藤氏住宅地点では、これとともに横剥ぎの石器群が確認された。横剥ぎ石器群が新旧2時期あ

ることを示唆する重要な出土例である。

6 東裏遺跡中村氏住宅地点では、後期旧石器時代前半の台形石器を中心とする石器群がまとまって出土した。

7 これら一連の調査を通じて、信濃町では古い時代の文化層であっても比較的浅い位置に包含されていることが多いので、狭い面積の開発であっても個人住宅等の発掘調査は、文化財保護に資する点が大きいことが理解される。

文 献

野尻湖人類考古グループ（1993）仲町遺跡、第6回露上

発掘の考古学的成果。野尻湖博物館研究報告、1号、113-166。

野尻湖人類考古グループ（1994）野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化。野尻湖博物館研究報告、2号、1-16。

谷 和隆（1996）信濃町東裏遺跡の調査。第8回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨、22-25。

長野県教育委員会（1990）松本市内その1、絵論編。中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4。

中村由克ほか編（1997）大道下遺跡（4次）はか信濃町内遺跡発掘調査報告書、押型文土器と平安時代の遺跡。信濃町教育委員会

表1 平成11年度信濃町内の遺跡の発掘調査一覧

No	遺跡名	原因	遺跡の時代	面積	調査期間	出土点数	備考
1	仲町	個人住宅 池田義一氏	旧石器 縄文・平安	118m ²	4/6 5/25, 5/26	13点	遺物が若干出土したが、土盛工法のため試掘グリッドのみを調査
2	仲町	個人住宅 佐藤範征氏	旧石器 縄文	60m ²	4/20~5/11	58点	約2.6万年前のナイフ形石器などの旧石器の石器集団区を確認
3	仲町	個人住宅 坂本筋子氏	旧石器 縄文・平安	100m ²	4/26~6/3	1,614点	平安時代の住居址2軒と約2.9万年前の石斧、ナイフなどの石器集団区を確認
4	大久保A	個人住宅 井上斎氏	（平安・縄文）	446m ²	5/12, 5/13	0点	試掘調査
5	東裏	個人住宅 中村正武氏	旧石器 縄文・平安	105m ²	5/17~6/4	172点	水成層より後期旧石器時代前半の石器が多數出土
6	仲町	個人住宅 池田清孝氏	旧石器 縄文・平安	132m ²	6/21, 6/22	12点	試掘グリッドのみを調査
7	仲町	個人車庫 大野健氏	旧石器 縄文	72m ²	6/28~7/2	23点	縄文前期石器と約2.7万年前のナイフ形石器などの旧石器が出土
8	仲町	個人車庫 野口一郎氏	（旧石器縄文）	34m ²	10/8~	6点	遺物が若干出土したが、包括層は以前に搅乱をうけている
9	仲町	個人車庫 佐藤志利氏	旧石器 縄文	54m ²	10/26, 29	9点	車庫の基礎部分のみ発掘 土器、石器が若干出土
10	小丸山公園	公園整備	旧石器 縄文	82m ²	11/29, 30	2点	試掘調査
11	針ノ木	町道 (柏原水穴越)	（平安・縄文）	5m ²	5/26	0点	試掘調査
12	東裏	役場排水 処理設備	（平安・縄文）	220m ²	8/19, 20	0点	試掘調査

これ以外の信濃町における発掘調査

13	東裏	町道 (柴山崎)	旧石器 縄文・平安	450m ²	4/23~6/8	1,072点	縄文早期の沈縄文系土器 (約7千年前)が多數出土
14	吹野原A	広域農道	旧石器 縄文	1,600m ²	6/11~11/29	1,349点	約1.3万年前の細石刃文化と 約2.9万年前の石斧やナイフなどの旧石器文化が出土
15	仲町	国道18号 野尻バイパス	旧石器 縄文・平安	2,850m ²	8/2~11/26	1,143点	近世～中世、平安の陶磁器、 縄文土器、用水跡、溝式置構、 火葬墓が出土 約1.3万年前の細石刃石核が出土



図1 平成11年度信濃町内遺跡の調査位置図

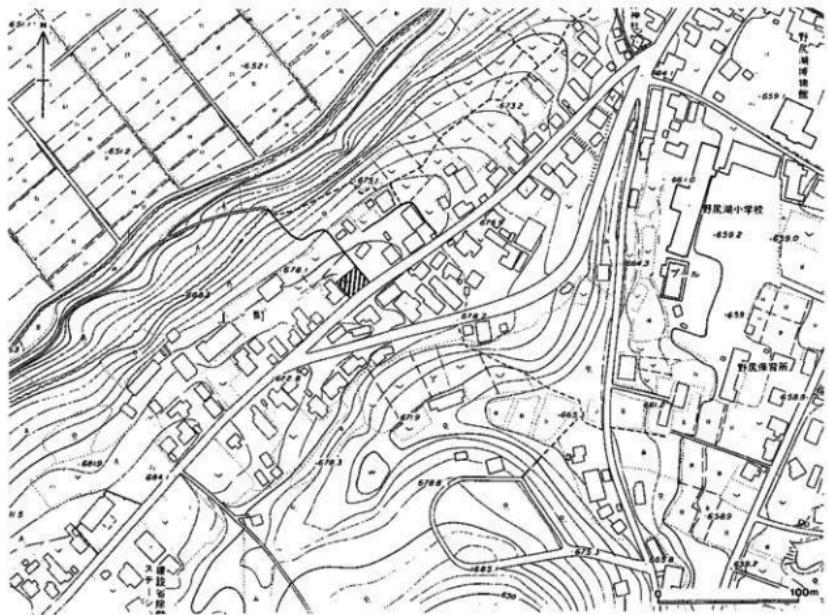


図2 仲町遺跡塚本氏住宅地点位置図

表2 仲町遺跡塚本氏住宅地点の出土遺物点数

旧石器時代 石器	316
礫	117
(小計)	433
縄文土器	33
弥生土器	3
(小計)	36
3号住居址 平安土器	866
4号住居址 平安土器	219
周辺 平安土器	28
その他	32
(小計)	1,145
合計	1,614

表3 仲町遺跡塚本氏住宅地点の旧石器時代の出土品

	黒曜石	無品質 安山岩	その他	石器合計	礫	合計
H1	3	7	3	13	5	18
H2	1	8	3	12	10	22
H3					1	1
A8	2	8	5	15	5	20
A1	6	32	3	41	11	52
A2	14	17	20	51	20	71
A3	2			2	6	8
B8	2	11	8	21	18	39
B1	2	65	14	81	28	109
B2	11	26	36	73	9	82
C1					1	1
表採				7	3	10
合計	43	174	92	316	117	433

表4 仲町遺跡塚本氏住宅地点の平安時代土器の出土点数

3号住居址		4号住居址	
土師器 壶		土師器 壺	
口縁	31	口縁	55
肩部	354	肩部	84
底部	12	底部	46
小計	397点	小計	185点
軟質須恵器 壺		軟質須恵器 壺	
口縁	111	口縁	1
肩部	65	肩部	29
底部	32	底部	2
小計	208点	小計	32点
須恵器		須恵器	
口縁		口縁	22
肩部		肩部	15
底部		底部	10
小計		小計	47点
住居址周辺	44点	住居址周辺	43点
3号住居址合計	866点	4号住居址合計	219点
住居址周辺以外		平安時代土器総数	
土師器 壶	11	1,113点	
土師器・黒色土器	6		
軟質須恵器 壺	5		
須恵器	2		
その他	2		
小計	28点		

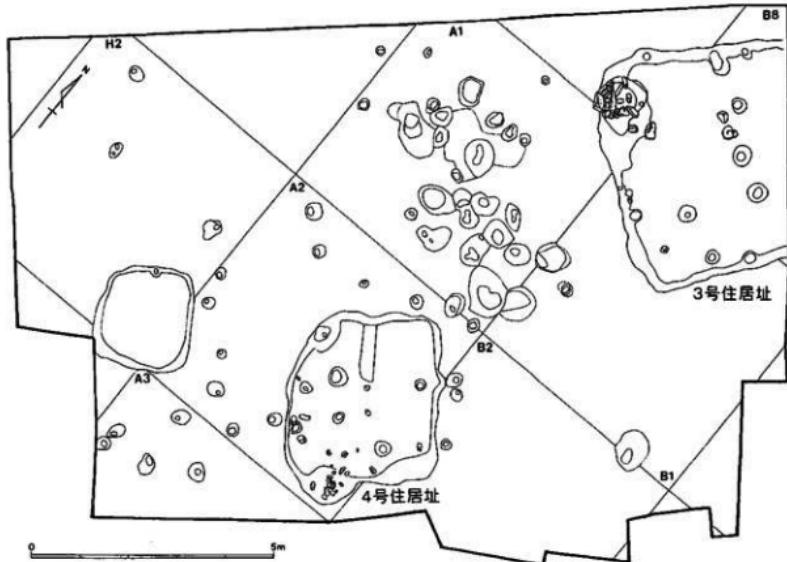


図3 仲町遺跡塚本氏住宅地点の平安時代遺構

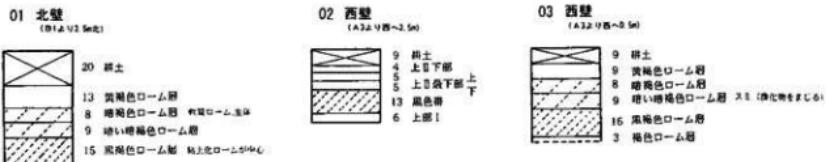


図4 仲町遺跡塚本氏住宅地点の地層

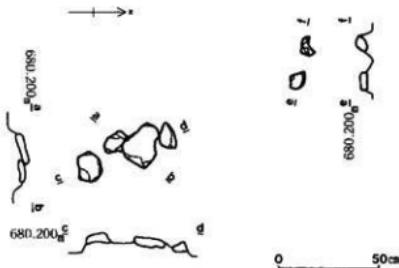


図5 旧石器時代の配石遺構 [H2 グリッド]

礫は黒色帶の直上にあり、上Ⅱ最下部の下底付近に包含される。直径13～26cmの礫4点と8cmの礫2点が、約60cmの間隔を置いて並んでいる。石材は安山岩である。

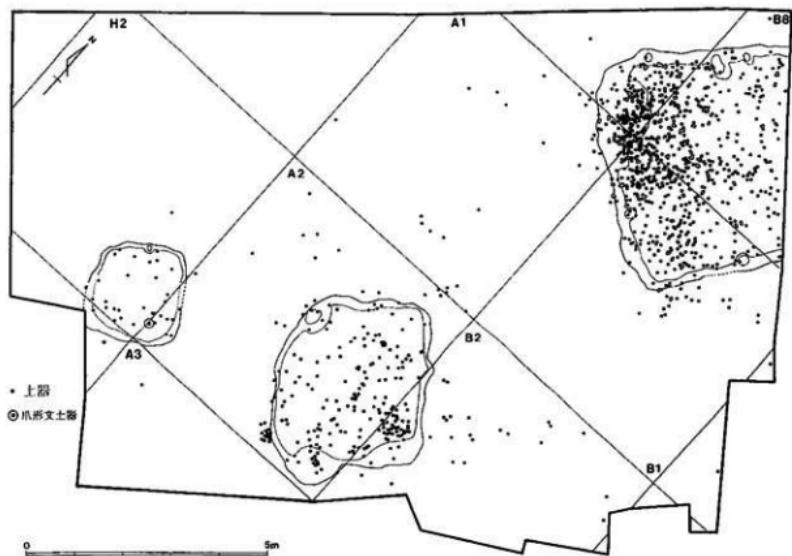
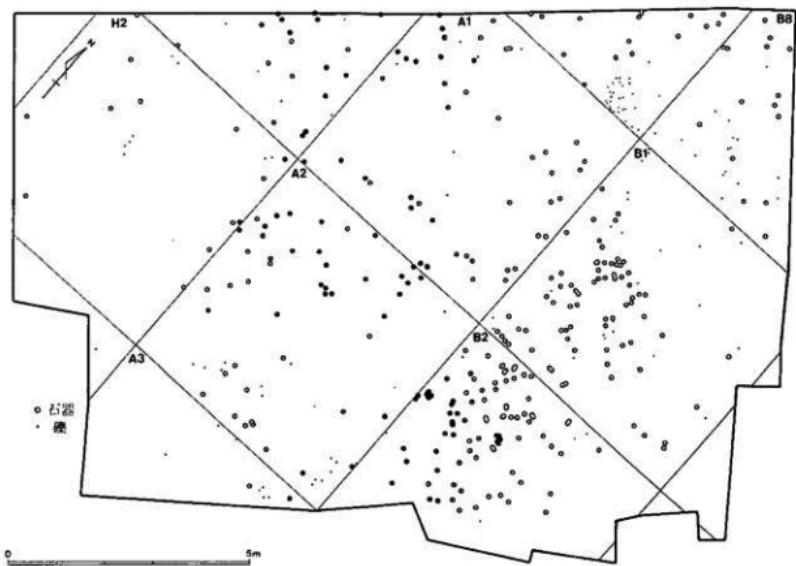


図6 遺物分布図 (上) 旧石器時代の石器、(下) 土器の分布 (縄文～平安)

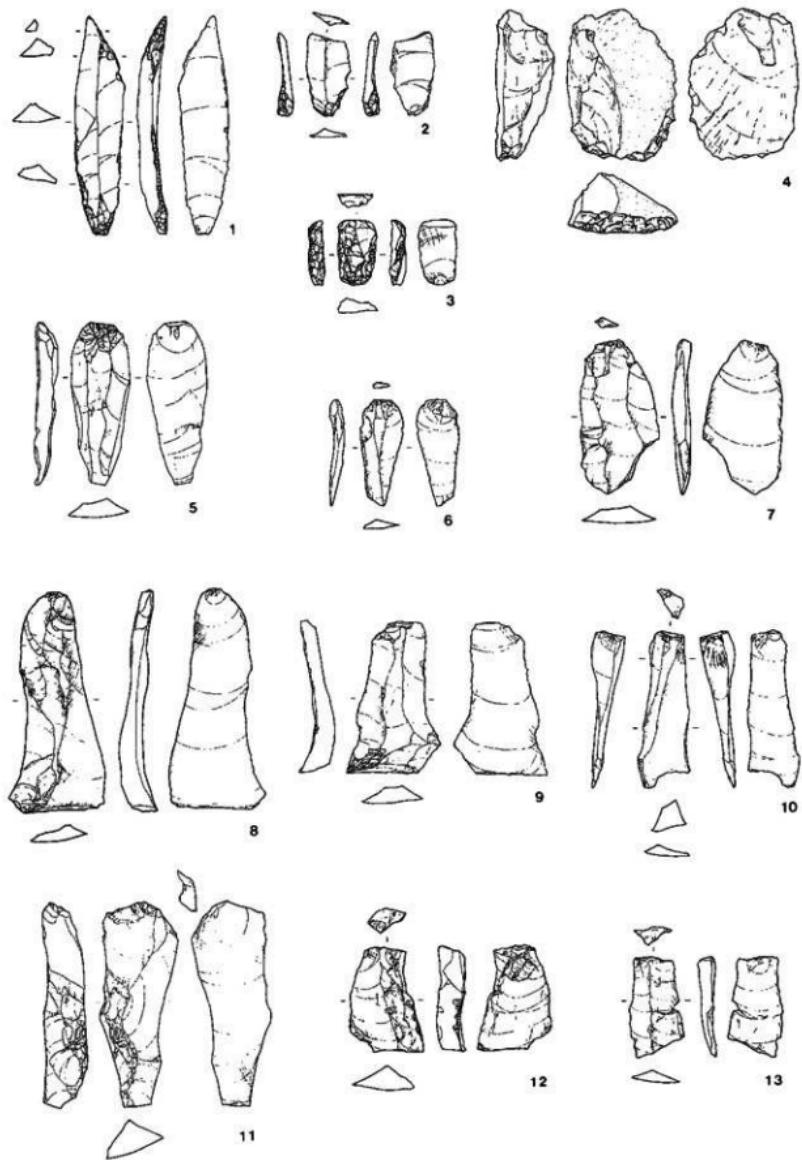


図7 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の石器（1）

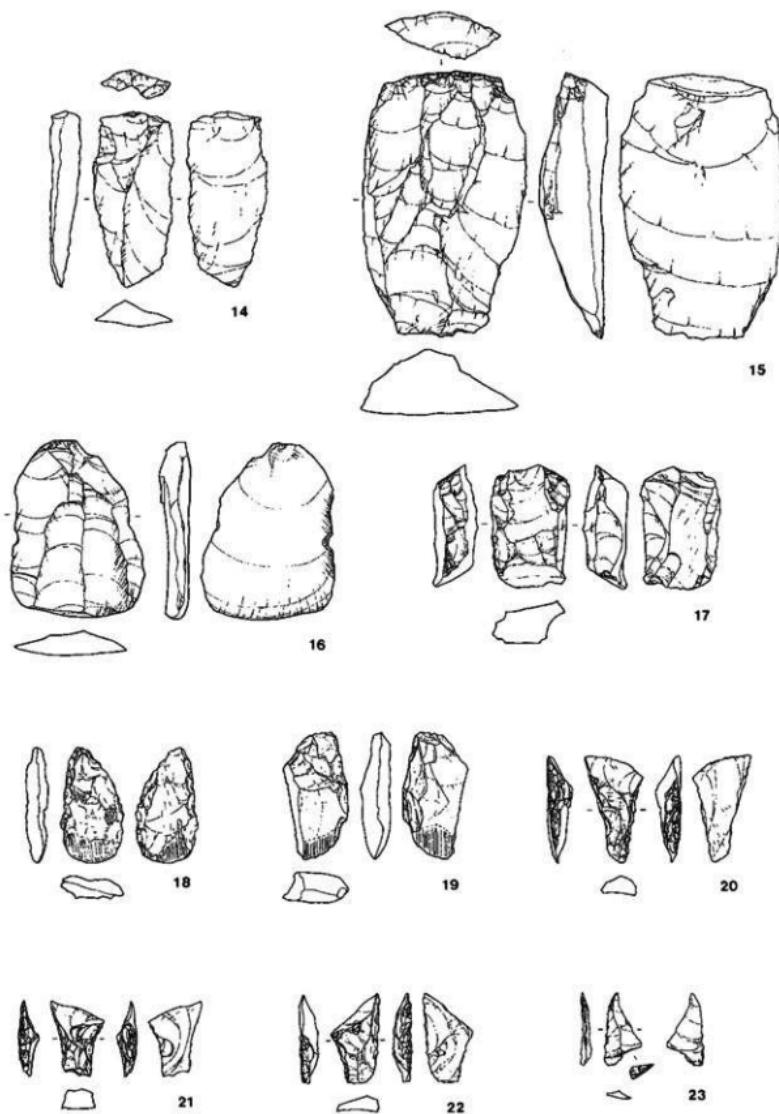


図8 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の石器（2）

0 5cm

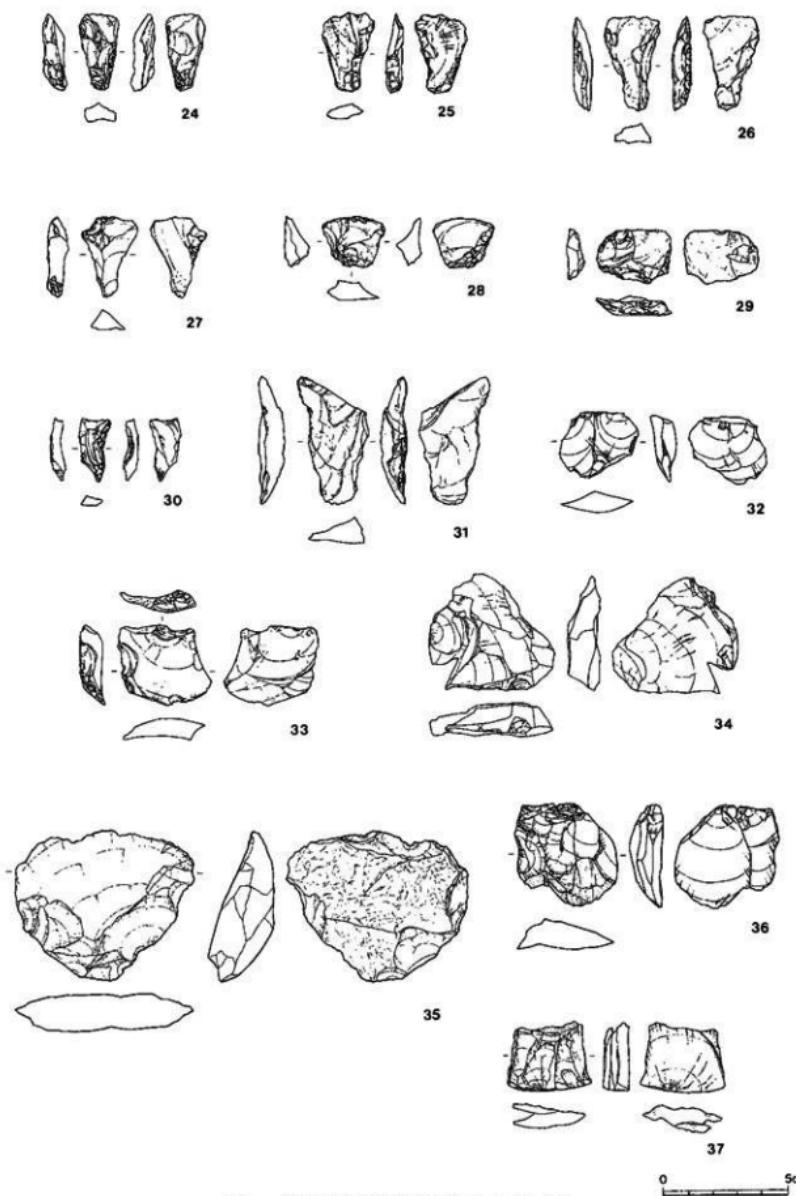


図9 仲町遺跡家本氏住宅地点出土の石器（3）

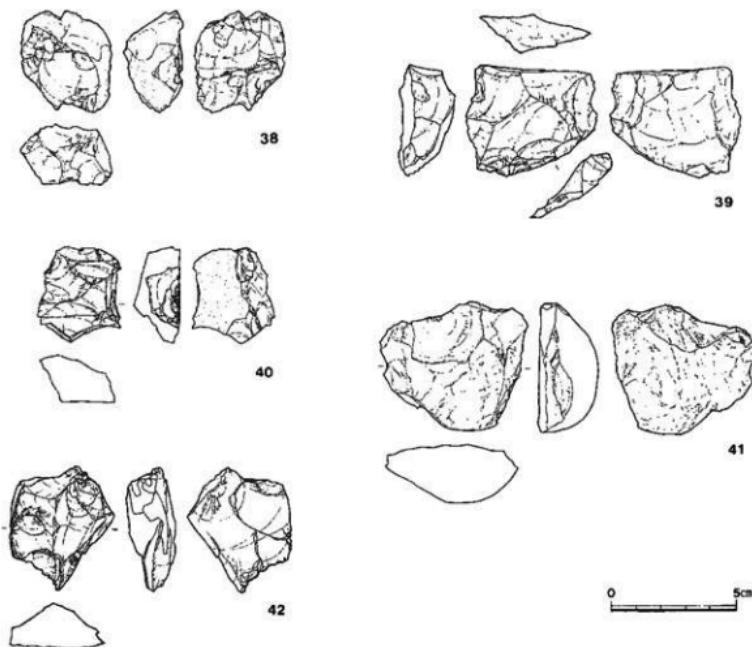


図 10 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の石器（4）

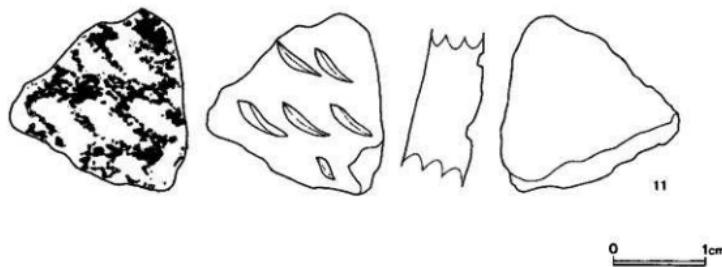


図 11 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の縄文土器（1） 草創期・爪形文土器

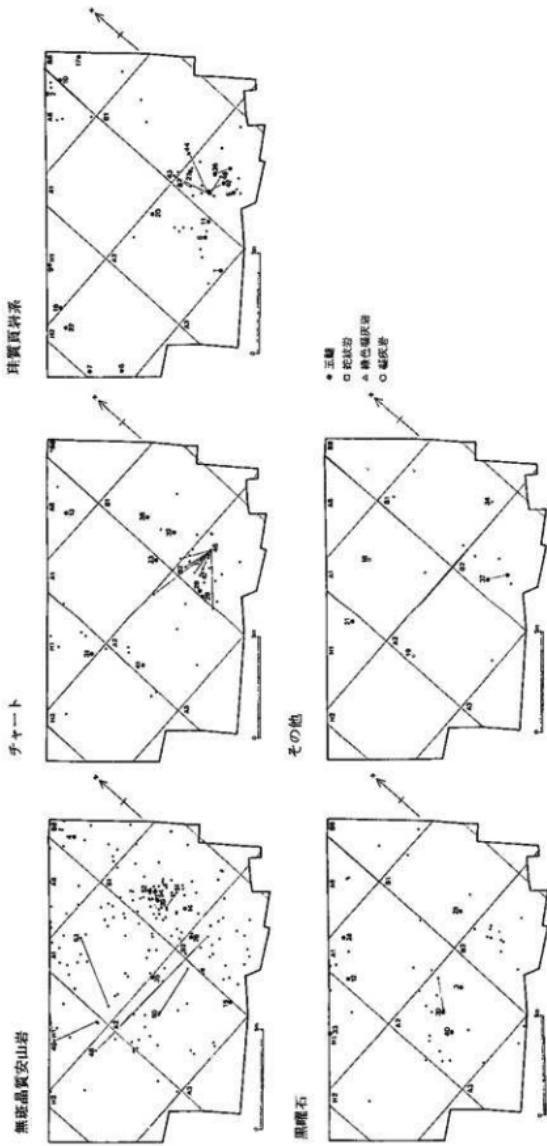


図 12 旧石器時代石器の石材別分布図
(直線は接合関係を示す)

表5 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の石器一覧（1）

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	ナイフ形石器	99仲塚本A2-246	上II最下部（上部）	珪質凝灰質頁岩	8.7	1.8	0.8	11.5	
2	ナイフ形石器	99仲塚本A8-208	上II最下部（中部）	珪質頁岩	3.3	1.7	0.6	2.5	先端折損
3	ナイフ形石器	99仲塚本A2-136	住居址櫻土	黒曜石	3.3	1.5	0.6	2.5	先端折損
4	スクレイパー	99仲塚本B8-41	住居址櫻土（上部）	無斑晶質安山岩	6.1	4.2	2.3	60.5	
5	石刃	99仲塚本B2-145	上II中部	珪質凝灰質頁岩	6.4	2.4	0.7	8.9	
6	石刃	99仲塚本A2-243	黒色帯（中部？）	珪質凝灰質頁岩	4.2	1.7	0.5	2.5	
7	石刃	99仲塚本B2-7	上II最下部上面	珪質凝灰質頁岩	6.0	3.2	0.6	11.3	
8	石刃	99仲塚本B2-46	上II最下部（下部）	珪質凝灰質頁岩	8.9	4.0	1.2	20.7	
9	石刃	99仲塚本B1-14	上II最下部（上部）	珪質凝灰質頁岩	6.1	3.8	0.9	14	打面を折損
10	石刃	99仲塚本B8-334	上II最下部（下部）	珪質頁岩	6.4	2.1	0.9	7.4	
11	石刃	99仲塚本A2-39	4号住居址櫻土（上部）	珪質頁岩	8.2	3.0	1.3	29.3	
12	石刃	99仲塚本A1-66	上II最下部（下部）	黒曜石	4.2	2.7	1.0	10.6	
13	石刃	99仲塚本B8-16	住居址櫻土（上部）	灰色チャート	3.9	2.1	0.6	4.0	
14	石刃	99仲塚本B1-316	上II最下部（上部）	無斑晶質安山岩	6.9	3.2	1.3	22.6	
15	紙長剝片	99仲塚本A2-43	4号住居址櫻土（上部）	無斑晶質安山岩	10.4	6.4	2.5	175.0	
16	紙長剝片	99仲塚本H1-24	上II最下部（下部）	珪質凝灰質頁岩	7.0	5.3	1.3	37.5	
17	石核	99仲塚本B8-52	住居址櫻土（上部）	珪質凝灰質頁岩	4.9	3.2	1.5	28.2	
18	局部磨製石斧	99仲塚本A1-58	黑色帯上面	蛇紋岩	4.5	2.5	0.7	9.1	
19	局部磨製石斧	99仲塚本A2-142	上II中部（？）	鰐灰岩（？）	4.9	3.2	1.1	17.3	左側縫合折損
20	台形石器	99仲塚本A2-201	上II最下部（下部）	珪質灰岩	4.4	2.2	0.9	5.7	
21	台形石器	99仲塚本H1-4	上II最下部上面	鐵石英	2.9	2.1	0.7	9.1	
22	台形石器	99仲塚本B2-16	上II下部（下部）	珪質頁岩	3.5	2.1	0.8	3.9	中生代珪質頁岩？
23	台形石器	99仲塚本A1-75	上II最下部（下面）	赤色チャート	2.8	1.5	0.4	1.0	
24	台形石器	99仲塚本A1-53	上II中部	黒曜石	2.9	1.6	0.8	3.1	
25	台形石器	99仲塚本B1-209	上II下部	黒曜石	3.0	2.0	0.6	2.6	
26	台形石器	99仲塚本B2-106	黒色帯（中部）	無斑晶質安山岩	3.7	2.1	0.8	4.6	
27	台形石器	99仲塚本B2-71	上II最下部（上部）	珪質軽灰岩	3.2	2.3	0.9	3.2	
28	台形石器	99仲塚本B2-23	4号住居址櫻土（上部）	灰色チャート	2.1	2.5	1.0	10.1	
29	台形石器	99仲塚本B2-130	上II最下部（中～下部）	灰色チャート	2.1	2.9	0.7	4.1	
30	台形石器	99仲塚本A2-206	上II最下部（上部）	黒曜石	2.5	1.2	0.5	1.0	
31	スクレイパー	99仲塚本H1-9	耕土、複乱層	赤色チャート	5.2	2.9	1.0	10.1	
32	スクレイパー	99仲塚本B1-212	黑色帯上面	赤色チャート	2.7	3.1	0.8	9.7	
33	スクレイパー	99仲塚本H1-15	上II下部	黒曜石	3.3	3.8	0.8	9.7	
34	スクレイパー	99仲塚本B1-230	上II最下部（上部）	緑色凝灰岩	4.7	4.9	1.2	25.8	
35	ヘラ形石器	99仲塚本A2-132	上II最下部（中部）	無斑晶質安山岩	6.1	7.3	2.1	82.3	
36	剥片	99仲塚本B2-13	上II中部	珪質灰岩	4.1	3.0	0.9	8.9	
37	剥片	99仲塚本B2-90	上II最下部（中部）	珪質灰岩	3.5	2.6	1.0	9.0	接合
38	剥片	99仲塚本B2-29	上II上部	玉髓	2.4	1.9	0.3	1.9	
39	石核	99仲塚本B2-139	上II最下部（下部）	玉髓	2.6	3.3	0.7	6.7	接合
40	石核	99仲塚本B1-390	黑色帯（上部）	赤色チャート	4.0	3.6	2.8	34.1	
41	石核	99仲塚本B1-195	上II下部（下部）	無斑晶質安山岩	4.1	5.1	2.1	53.5	
42	石核	99仲塚本A2-28	上II上部	黒曜石	3.8	3.8	1.7	19.4	
43	石核	99仲塚本A2-144	上II最下部（下部）	青灰色チャート	5.0	6.0	2.3	72.7	
44	石核	99仲塚本B2-30	上II下部	珪質凝灰質頁岩	2.2	2.1	0.5	2.3	
45	石核	99仲塚本B2-95	住居址櫻土（上部）	珪質凝灰質頁岩	4.0	4.7	1.8	27.5	
46	剥片	99仲塚本B1-224	上II最下部	珪質凝灰質頁岩	2.6	3.1	1.9	17.6	
47	剥片	99仲塚本B1-121	住居址櫻土（上部）	珪質凝灰質頁岩	2.7	2.9	0.5	4.7	
48	剥片	99仲塚本B1-136	住居址櫻土（上部）	珪質凝灰質頁岩	2.4	1.5	0.4	1.1	44と同一母岩
49	剥片	99仲塚本B1-314	黑色帯上面	珪質凝灰質頁岩	2.1	1.8	0.5	2.5	接合
50	剥片	99仲塚本B1-131	住居址櫻土（上部）	珪質凝灰質頁岩	3.2	2.7	0.9	6.8	43と同一母岩
51	剥片	99仲塚本B2-20	上II上部	珪質凝灰質頁岩	3.3	4.3	1.2	9.7	接合
52	石核	99仲塚本B1-88	黑色帯（上部）	珪質凝灰質頁岩	4.4	8.3	3.5	81.8	
53	剥片	99仲塚本A2-129	住居址櫻土		1.8	3.3	0.6	3.9	
54	剥片	99仲塚本B2-232	黒色帯（上部）		2.4	2.7	0.7	3.8	
55	剥片	99仲塚本B1-313	黒色帯上面		1.5	2.1	0.7	2.1	
56	剥片	99仲塚本B2-1	上II下部底～上II下部		2.5	5.6	1.1	15.4	
57	剥片	99仲塚本B2-3	上II下部		2.0	3.5	1.3	5.6	
58	剥片	99仲塚本B2-5	上II最下部（上部）		3.4	4.8	1.0	16.1	
59	剥片	99仲塚本B2-78	上II最下部（上部）		2.0	3.7	0.9	5.0	
60	剥片	99仲塚本B2-122	上II最下部（上面）		2.4	4.2	1.4	15.9	

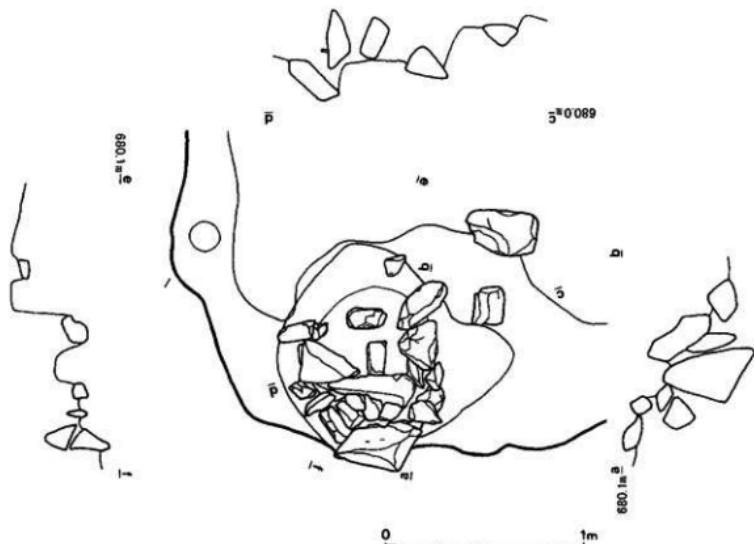
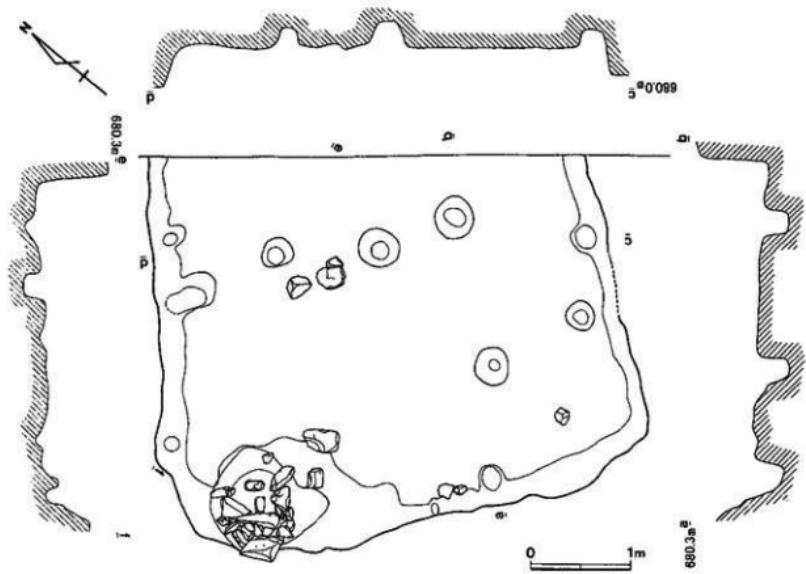


図13 仲町遺跡3号住居址の平面図 (上) 全体 (下) かまど部分

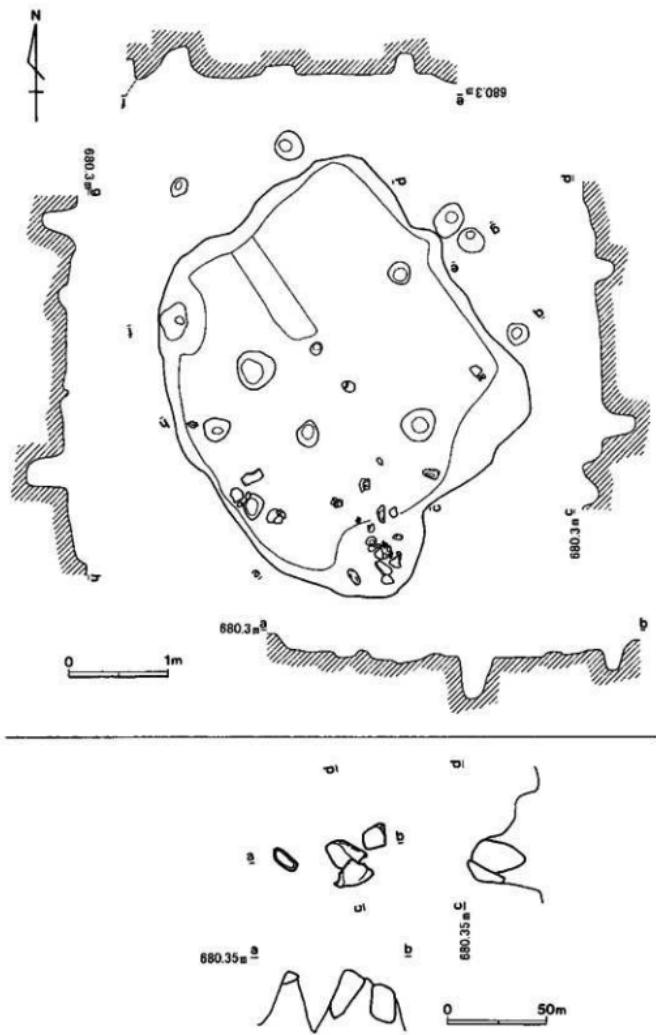


図 14 仲町遺跡 4 号住居址の平面図 (上) 全体 (下) かまど部分

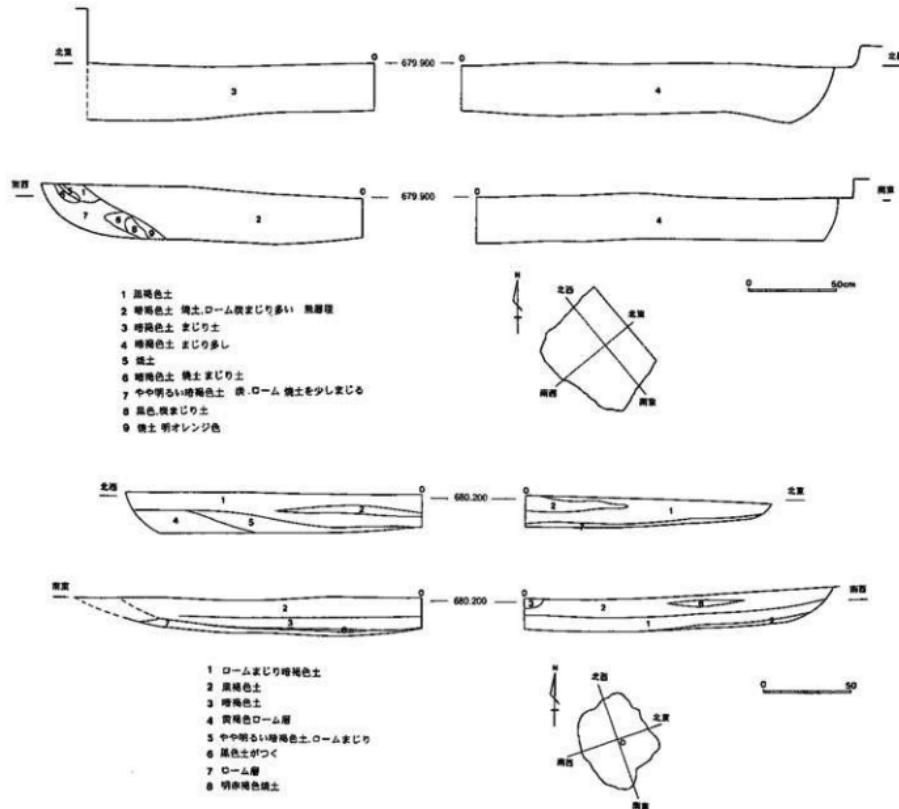


図15 仲町遺跡3号、4号住居址の覆土の地質断面図

表6 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の石器一覧（2）

47	剥片 石核	99仲塚本B2-79 99仲塚本B2-77	上Ⅱ最下部(中部) 上Ⅱ最下部(中部)	灰色チャート	2.3 2.7	2.7 4.9	1.4 1.8	5.7 17.0	接合
48	剥片	99仲塚本B2-2	上Ⅱ最下部(中部) 上Ⅱ最下部(下部)	無斑晶質安山岩	6.7 3.6	6.1 6.7	1.3 1.7	48.1 47.8	
49	剥片	99仲塚本H1-13 99仲塚本H1-17 99仲塚本H1-23	上Ⅱ最下部(上部) 上Ⅱ下部 上Ⅱ下部(下部)	無斑晶質安山岩	5.1 4.1 4.4	4.7 3.3 2.4	0.9 1.4 1.2	15.5 23.8 12.5	接合
50	剥片	99仲塚本A2-8 99仲塚本A2-208	4号住居址覆土(上部) 上Ⅱ最下部(上部)	無斑晶質安山岩	4.1 4.6	2.5 3.3	1.2 1.2	8.4 12.5	接合
51	剥片	99仲塚本B1-214 99仲塚本B1-305	上Ⅱ最下部 黑色带(上部)	無斑晶質安山岩	4.6 6.7	3.3 4.3	1.5 2.0	20.5 56.8	接合
52	剥片	99仲塚本B1-234 99仲塚本B1-393	上Ⅱ最下部 黑色带(上部)	無斑晶質安山岩	5.9 1.8	3.9 2.7	1.3 1.1	26.2 5.1	接合
53	剥片	99仲塚本A1-39 99仲塚本A1-60	上Ⅱ最下部 上Ⅱ最下部(下面)	無斑晶質安山岩	4.2 3.4	4.8 4.4	1.4 1.4	27.8 21.6	接合
54	剥片	99仲塚本B1-197 99仲塚本B1-304	黑色带(上面) 黑色带(下部)	無斑晶質安山岩	5.1 3.2	4.3 2.5	0.9 0.7	22.6 6.4	接合

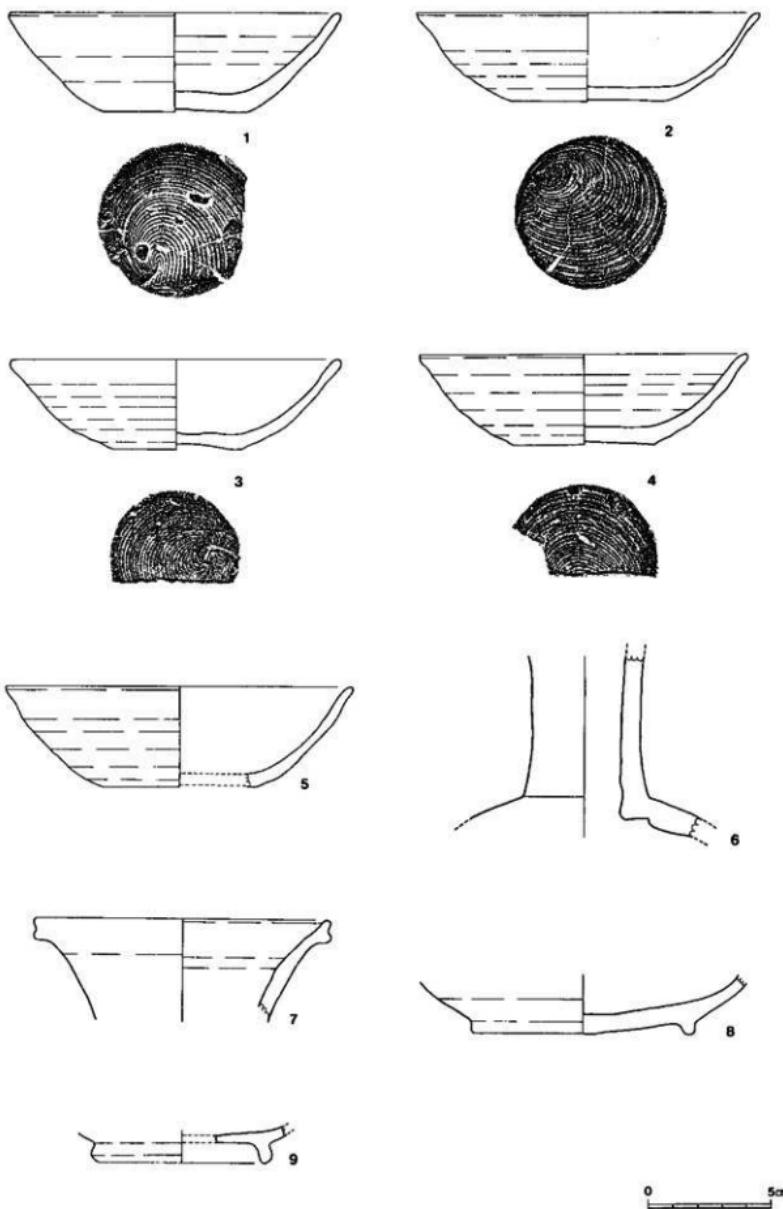


図 16 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の平安時代土器 (1)

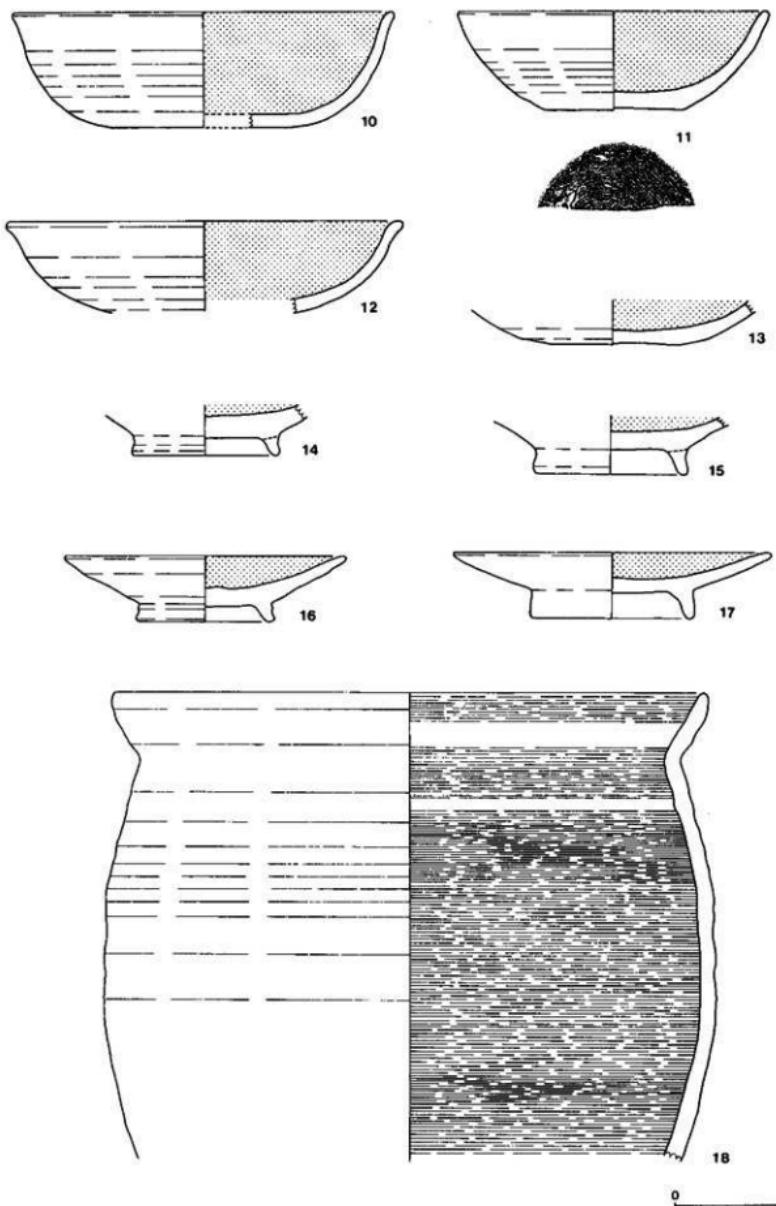
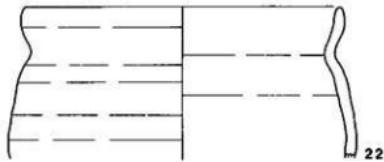
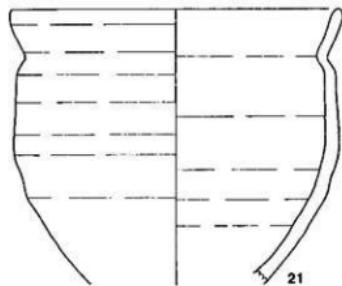
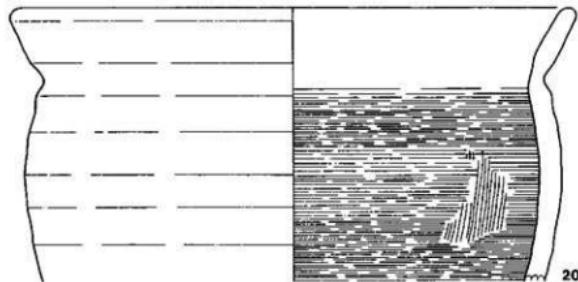
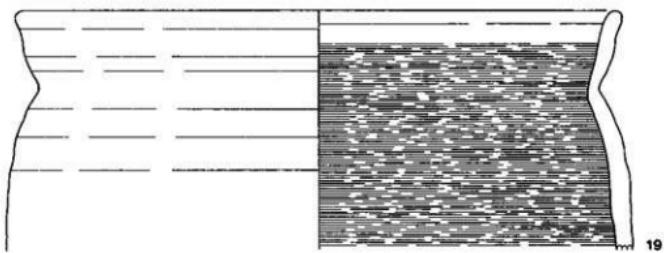


図17 仲町遺跡坂本氏住宅地点出土の平安時代土器（2）



0 5cm

図 18 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の平安時代土器（3）

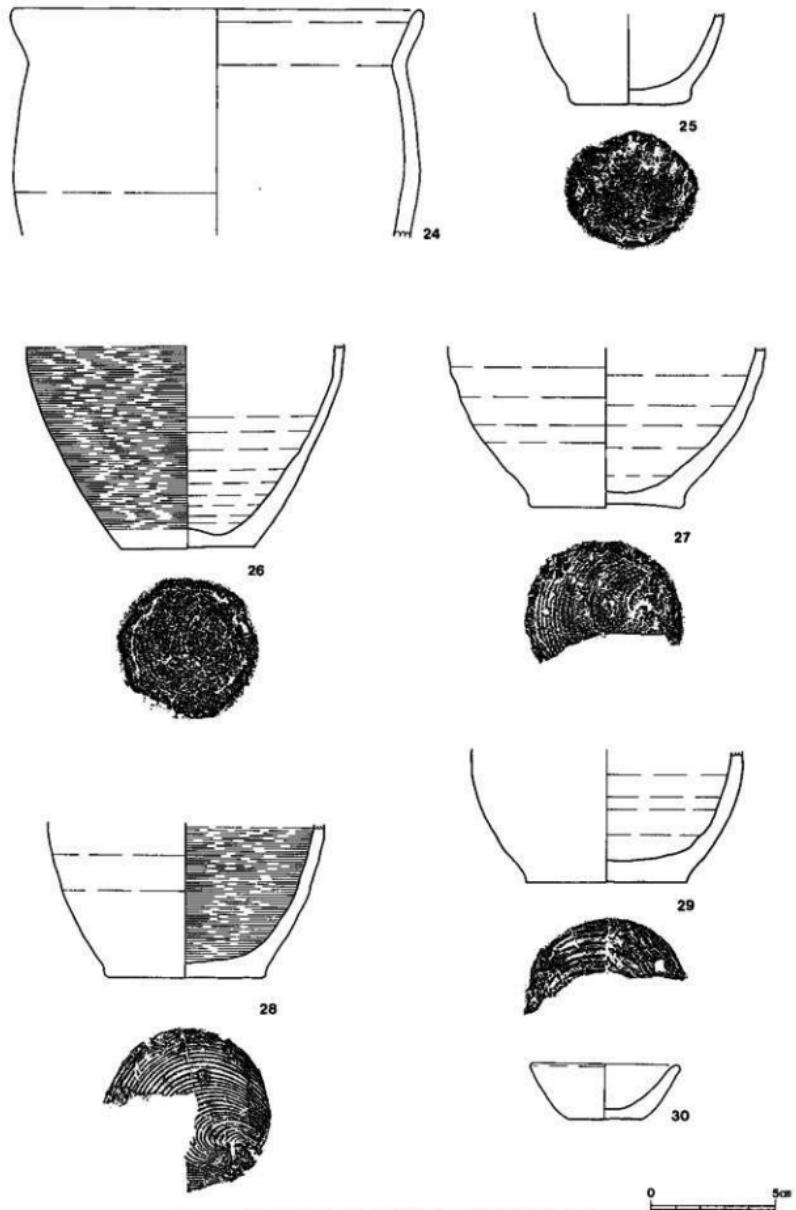
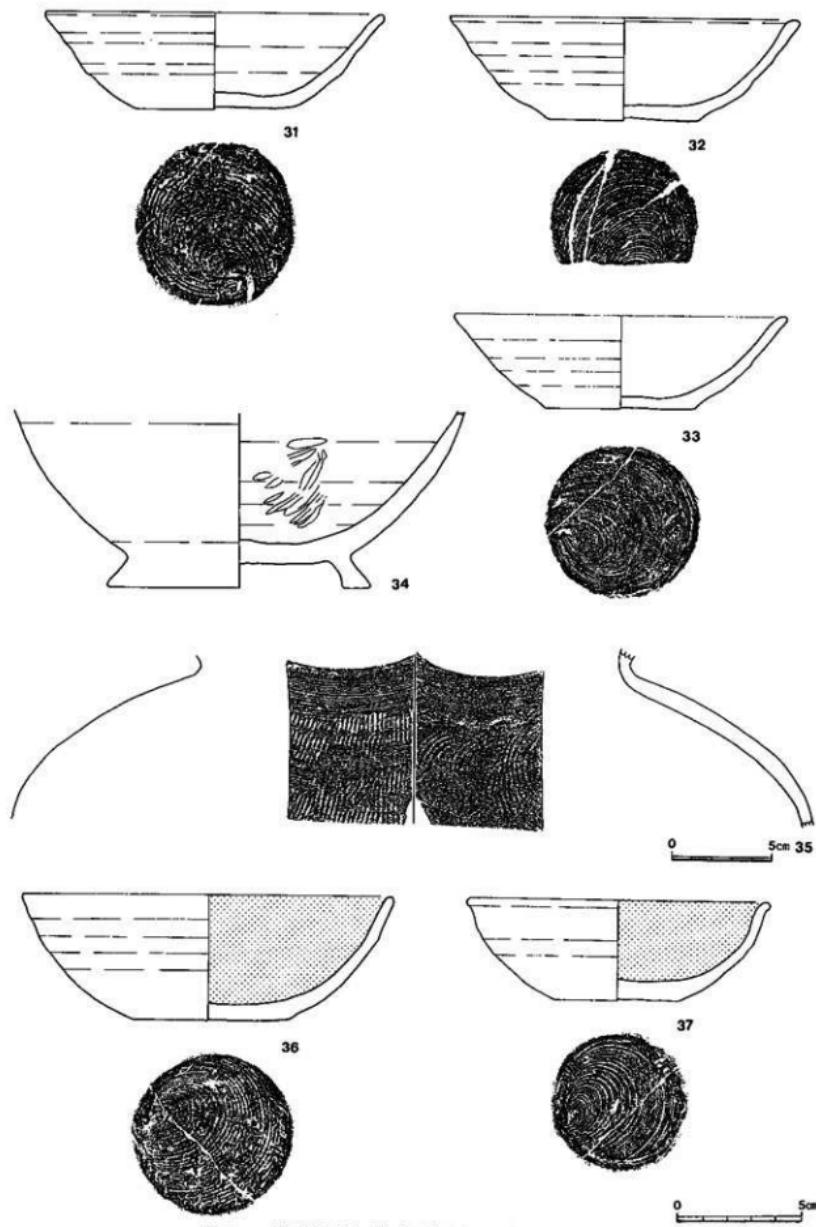


図19 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の平安時代土器 (4)



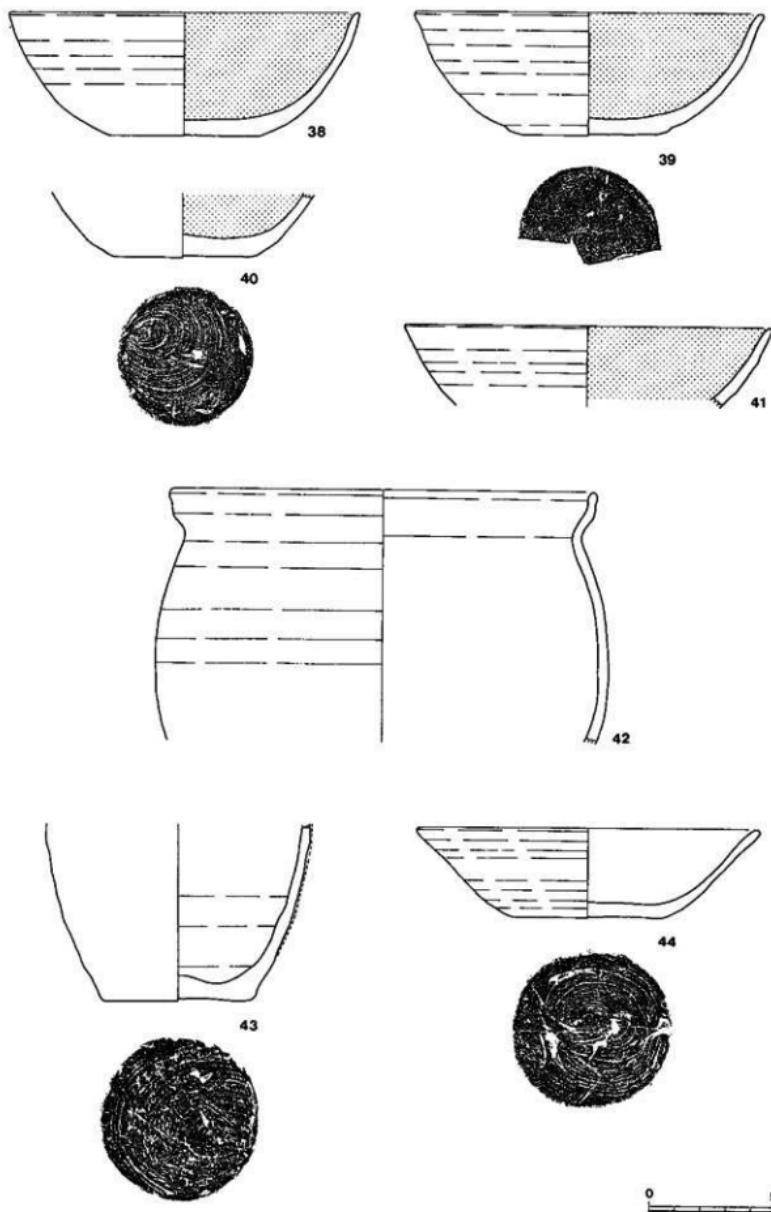


図 21 仲町遺跡坂本氏住宅地点出土の平安時代土器 (6)

0 5cm

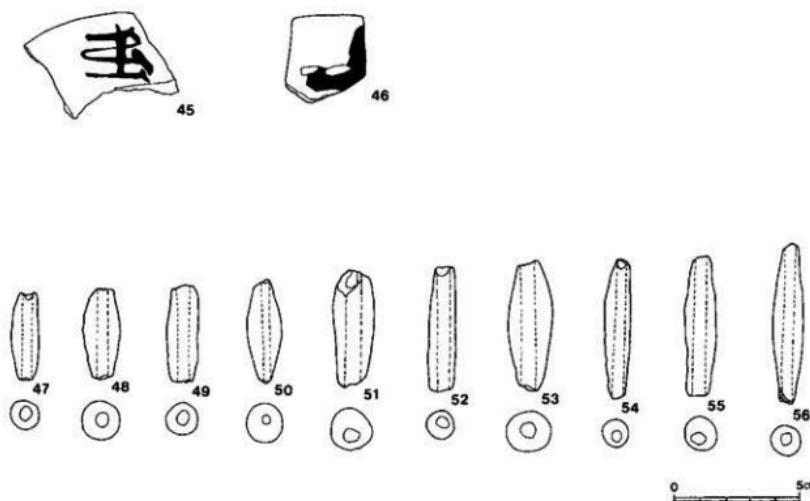


図22 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の平安時代土器および土錐（7）

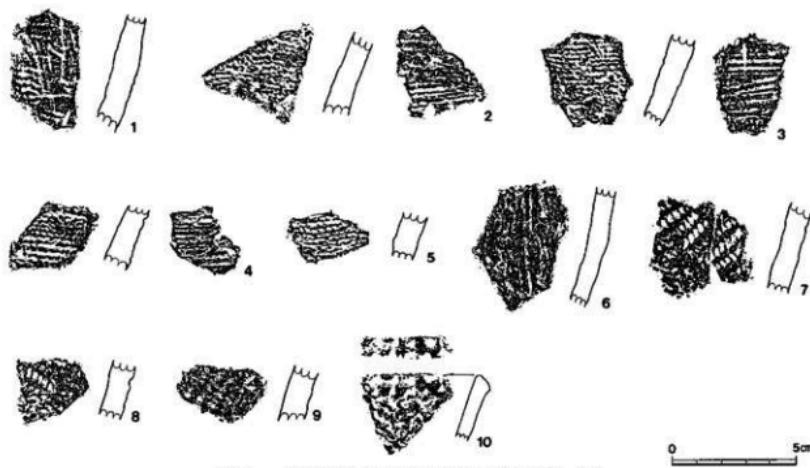


図23 仲町遺跡塚本氏住宅地点出土の縄文土器（2）

表7 仲町遺跡坂本氏住宅出土の平安時代土器一覧（1）

3号住居址							単位：cm	
No	種類	器種	口径	底径	器高	残存	遺物番号	備考
1	軟質須恵器	壺	13.4	6.0	3.9	9/16	99仲坂本A8-111, 216	
2	軟質須恵器	壺	13.8	6.0	3.5	7/16	99仲坂本A8-11, 113(9)	
3	軟質須恵器	壺	13.4	5.2	3.6	3/8	99仲坂本B8-56	
4	軟質須恵器	壺	13.2	5.7	3.6	3/8	99仲坂本A8-217, 218	
5	軟質須恵器	壺	14.0		4.0	3/16	99仲坂本B1-371(2)	
6	須恵器	長頸壺					99仲坂本A1-95	
7	灰釉陶器						99仲坂本B8-301	
8	灰釉陶器						99仲坂本B1-292, B2-140	
9	灰釉陶器						99仲坂本B8-157, 306	
10	黒色土器	壺	15.4		4.6	1/2	99仲坂本B8-46(2), 43, 48, 82, 135(2), 137, 172, 178, 216	
11	黒色土器	壺	12.6	5.6	3.9	1/4	99仲坂本A8-119(2)	
12	黒色土器	壺					99仲坂本A8-121	
13	黒色土器	壺					99仲坂本B1-370	
14	黒色土器	碗		6.0			99仲坂本B1-148	
15	黒色土器	碗		6.2			99仲坂本B1-155	
16	黒色土器	皿	11.3	5.6	2.6	7/8	99仲坂本A8-176(2)	
17	黒色土器	皿	12.8	6.6	2.6	5/8	99仲坂本A1-93	
18	土師器	甕	24.0		18.7	口縁部, 頸部	99仲坂本A1-5, 6(2), 97(14), A8-18(2)	
19	土師器	甕	24.2		9.4	口縁部	99仲坂本A8-23, B1-39, B8-109, 289, 290	
20	土師器	甕	22.8		10.9	口縁部	99仲坂本B8-202	
21	土師器	甕	13.4			口縁部, 頸部	99仲坂本A1-94(2), 92, B1-359	
22	土師器	甕	13.0			口縁部	99仲坂本A8-92, 94	
23	土師器	甕	15.8			口縁部	99仲坂本B1-165(6), 290	
24	土師器	甕				口縁部	99仲坂本A8-112(4)	
25	土師器	甕		5.0	3.6	底部	99仲坂本B8-77	
26	土師器	甕		5.4	8.0	頸部, 底部	99仲坂本A1-83(5), A8-98, 176(2)	
27	土師器	甕		6.3	6.4	頸部, 底部	99仲坂本A8-106	
28	土師器	甕		6.5	6.2	頸部, 底部	99仲坂本B1-38, 125, B8-24, 117	
29	土師器	甕		6.5	5.3	頸部, 底部	99仲坂本A8-166, B8-341(2)	
30	土師器	灯明皿	6.1	2.9	2.2	丸形	99仲坂本B8-139	
4号住居址								
31	軟質須恵器	壺	13.6	6.3	3.8	7/8	99仲坂本A2-222, 242(2)	
32	軟質須恵器	杯	14.0	6.0	4.0	3/8	99仲坂本A2-162(12)	
33	軟質須恵器	杯	13.3	5.9	3.7	7/8	99仲坂本A2-80, 81, 178(2)	墨書き土器
34	須恵器	壺？	10.6	7.0		底部	99仲坂本A2-102, 161, 164(5)	
35	須恵器	甕			8.7	頸部	99仲坂本A2-38	
36	黒色土器	壺	15.0	6.3	5.1	15/16	99仲坂本A2-117(4), 119	
37	黒色土器	壺	12.0	5.3	4.1	5/16	99仲坂本A2-108, 109, 163(4)	
38	黒色土器	壺	14.0	6.0	4.8	1/4	99仲坂本B2-99(2), 105(3)	
39	黒色土器	壺	14.0	5.4	4.8	7/16	99仲坂本A2-113, 172(2), 173, 174	
40	黒色土器	壺		5.5	2.5	底部	99仲坂本A2-169	
41	黒色土器	壺	14.8			口縁部	99仲坂本B2-55, 66(3)	
42	土師器	甕	17.2		10.1	口縁部, 頸部	99仲坂本A2-216	
43	土師器	甕		6.0	7.1	頸部, 底部	99仲坂本A2-216	
3, 4号住居址以外								
44	軟質須恵器	壺	13.8	6.0	3.6	3/4	99仲坂本H2-23(11)	
45	黒色土器	皿？				口縁部	99仲坂本A1-111	墨書き土器 3号住居址内

単位：cm

表8 仲町遺跡冢本氏住宅地点出土の平安時代土器一覧（2）

46	軟質須恵器			口縁部	99件冢本A2-202	堅質土器 4号住居址内
3.4住居址の土縫						
種類		長さ	最大径	孔径	重さ(g)	遺物番号
47	管状土縫	3.5	1.1	0.5	3.9	99件冢本B8-179
48	管状土縫	3.6	1.5	0.5	7.1	99件冢本A8-145
49	管状土縫	3.8	1.2	0.5	6.0	99件冢本B8-151
50	管状土縫	4.1	1.4	0.3	7.5	99件冢本B1-41
51	管状土縫	3.1	1.6	0.6	11.0	99件冢本B2-138
52	管状土縫	4.9	1.1	0.5	5.7	99件冢本B1-172
53	管状土縫	5.2	1.7	0.6	12.0	99件冢本A8-97
54	管状土縫	5.5	1.1	0.4	6.1	99件冢本B8-270
55	管状土縫	5.5	1.2	0.6	8.8	99件冢本A8-96
56	管状土縫	6.3	1.2	0.4	8.3	99件冢本B8-215
単位：cm						

表9 仲町遺跡冢本氏住宅地点出土の繩文土器一覧

No	時期	文様	文様要素	織維	遺物番号	備考
1	早期後半	縄文		ごく少	99件冢本B1-71	赤褐色
2	早期後半	縄文	内面条痕文	やや多～多	99件冢本B2-26	暗灰色
3	早期後半	縄文	内面条痕文	やや多	99件冢本A2-244	明赤褐色、内面暗灰色
4	早期後半	縄文	内面条痕文	やや多～多	99件冢本B2-34	明赤褐色、内面暗灰色
5	早期後半	縄文	内面条痕文	やや多～多	99件冢本B2-25	明赤褐色、内面暗灰色
6	早期後半	条痕文		有	99件冢本A2-83	明赤褐色、内面暗褐色
7	早期後半	縄文		やや多～多	99件冢本B2-74, 137	暗灰色 单節LR
8	早期後半	縦条体压痕文		有	99件冢本A2-34	暗灰色
9	早期後半	縄文		有	99件冢本A2-147	暗灰色 单節
10	後期後半	沈縄文	刺突列	ごく少	99件冢本B1-281	褐色 口縁部
11	草創期	爪形文			99件冢本A2-231	暗褐色

表10 仲町遺跡佐藤（範）氏住宅地点出土の石器・土器一覧

単位：cm, g

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	ナイフ形石器	99件佐藤石油-1	上Ⅱ最下部・上(Va)	凝灰質頁岩	7.6	2.5	1.0	17.9	
2	ナイフ形石器	99件佐藤石油-2	上Ⅱ最下部・上(Va)	凝灰岩	4.5	1.6	0.7	4.6	
9	剥片	99件佐藤石油-9	モヤ上部(Ⅲ)	無斑晶質安山岩	3.3	2.6	0.6	4.7	
10・47	横長剥片	99件佐藤石油-10 99件佐藤石油-47	上Ⅱ下部(IV) 上Ⅱ中部(IV)	無斑晶質安山岩	10.0	3.2	1.4	33.3	接着
13	石刃	99件佐藤石油-13	上Ⅱ上部(IV)	無斑晶質安山岩	5.8	2.4	1.0	4.7	
24	剥片	99件佐藤石油-24	上Ⅱ下部(IV)	無斑晶質安山岩	3.5	2.6	0.5	3.9	
25	石刃	99件佐藤石油-25	上Ⅱ最下部・上(Va)	中生代珪質頁岩	7.7	2.8	1.7	26.5	
26	石刃	99件佐藤石油-26	上Ⅱ中(～下)部(IV)	白色凝灰岩	6.0	3.4	0.9	8.7	
56	横長剥片	99件佐藤石油-56	上Ⅱ最下部・中(Va)	白色凝灰岩	2.8	5.2	0.9	10.2	

No	文様・文様要素	織維	遺物番号	備考
29	条紋文？	有	99件佐藤石油-29	
32	条紋文？	少	99件佐藤石油-32(4)	
33	無文	やや多	99件佐藤石油-33	
36	無文	少	99件佐藤石油-36	
43	無文	少	99件佐藤石油-43	



図24 仲町遺跡個人住宅地点の位置図

A: 池田（消）氏住宅地点、B: 塚本氏住宅地点、C: 野口氏車庫地点、D: 大野氏住宅地点、
E: 池田（義）氏住宅地点、F: 佐藤（範）氏住宅地点・佐藤（志）氏車庫地点

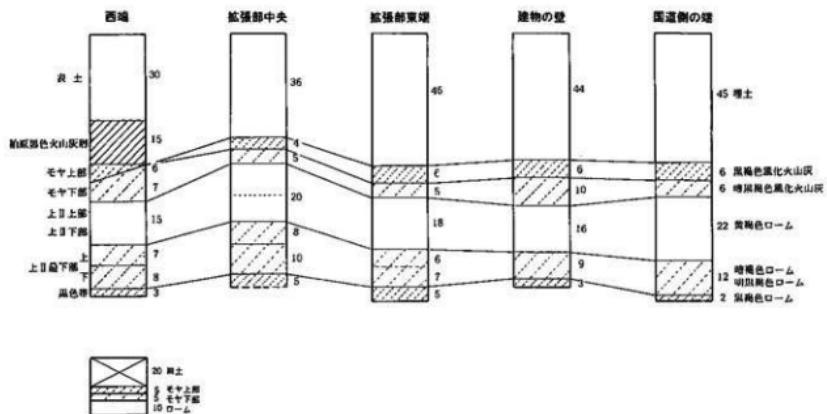
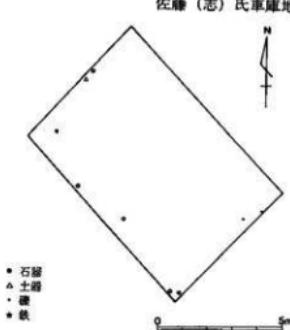


図25 仲町遺跡佐藤（範）氏住宅地点出土の地層
下は佐藤（志）氏車庫地点



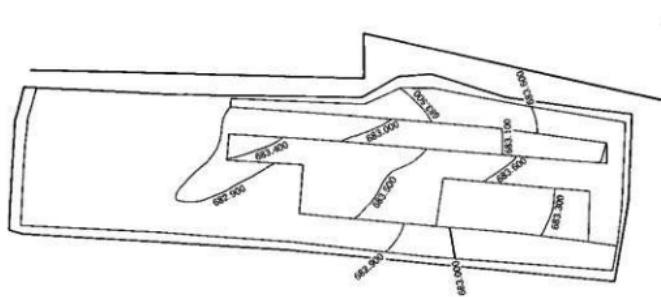
[上]佐藤（範）氏住宅地点 [下]佐藤（志）氏車庫地点



- 石器
- △ 土器
- 木器
- ★ 鉄

佐藤（範）氏住宅地点

0 5m



0 5m

図 26 仲町遺跡佐藤（範）氏住宅地点の位置、遺物分布図、地形

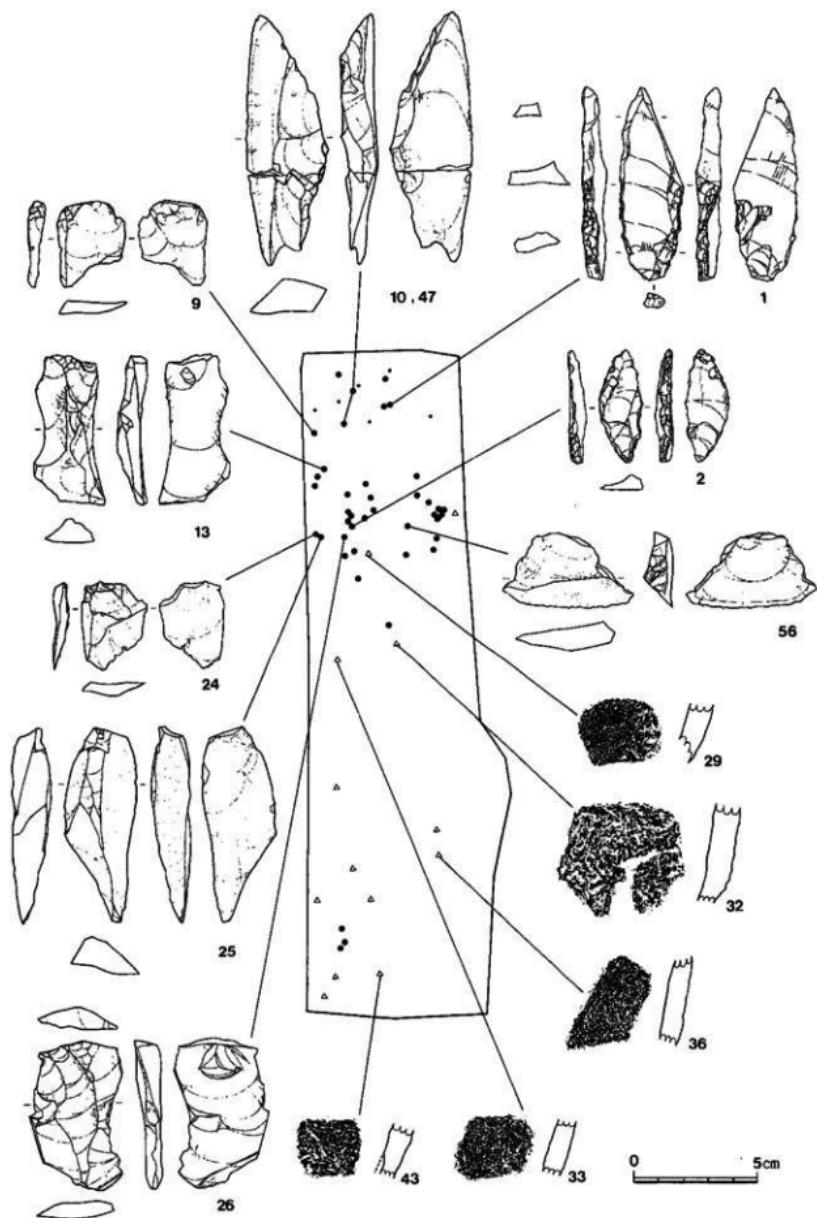


図 27 仲町遺跡佐藤（範）氏住宅地点の出土遺物

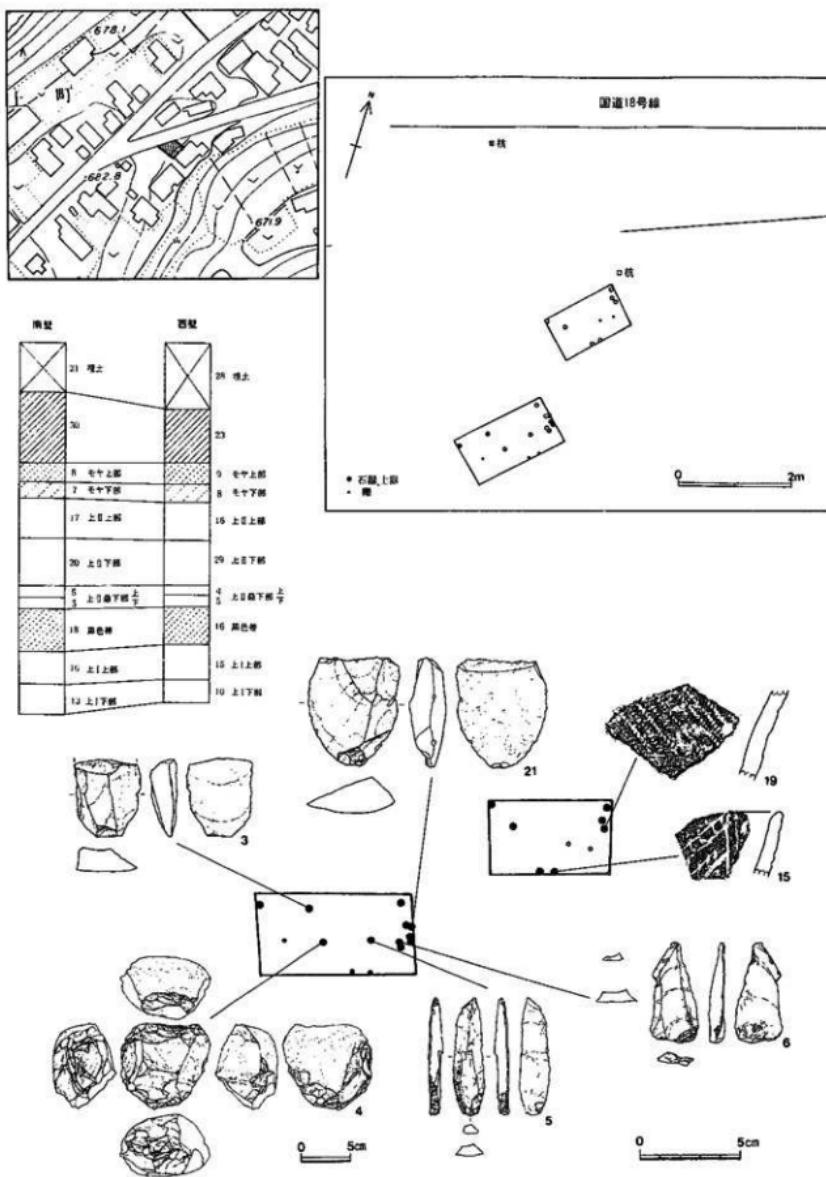
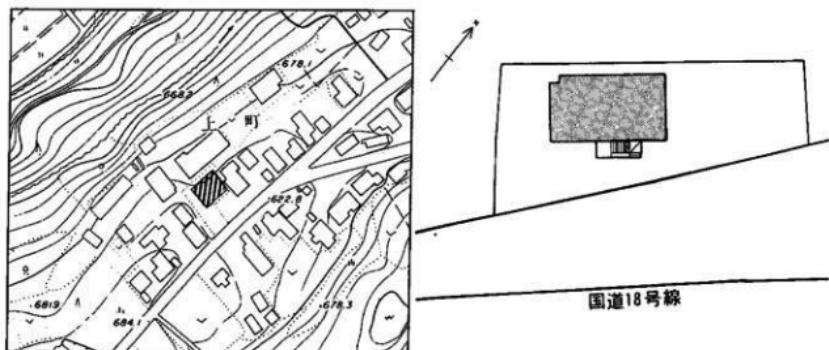


図 28 仲町遺跡大野氏住宅地点の位置、遺物分布図、地層、出土遺物



国道18号線

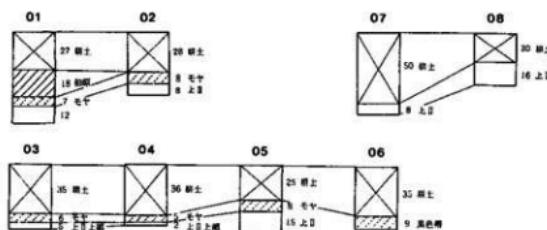
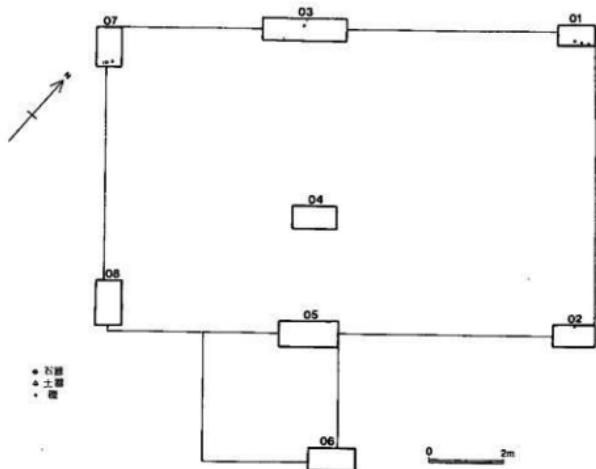


図29 仲町遺跡池田(義)氏住宅地点の位置、遺物分布図、地層

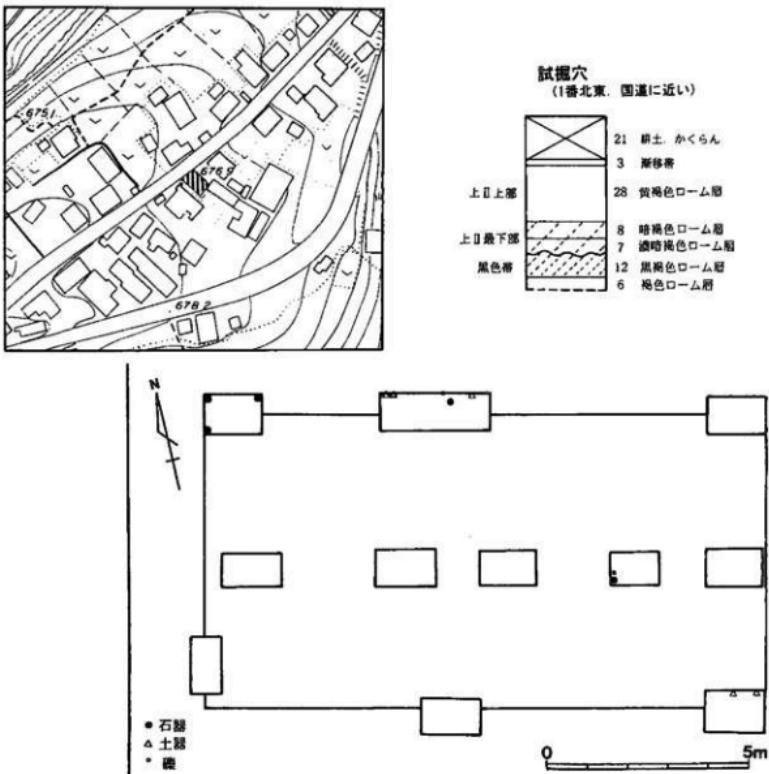


図 30 仲町遺跡池田(清)氏住宅地点の位置、遺物分布図、地層



図 31 仲町遺跡野口氏車庫地点の位置、地層

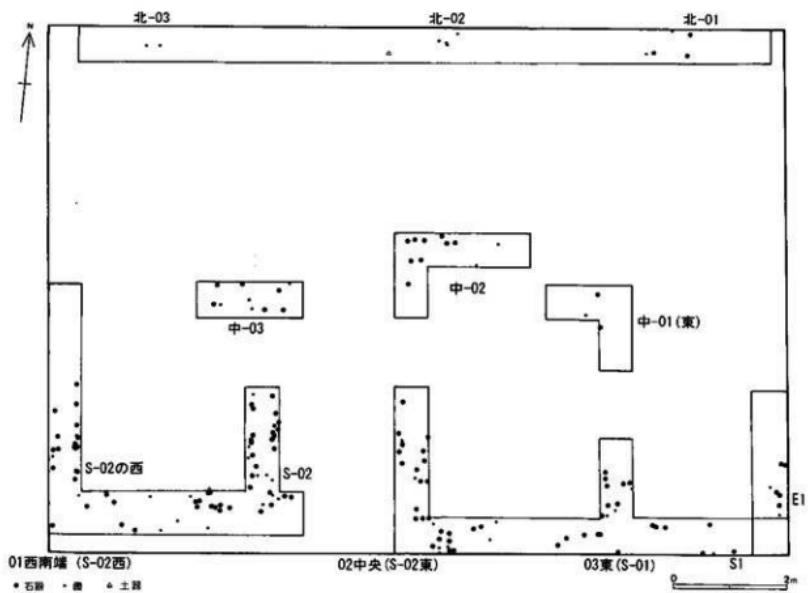
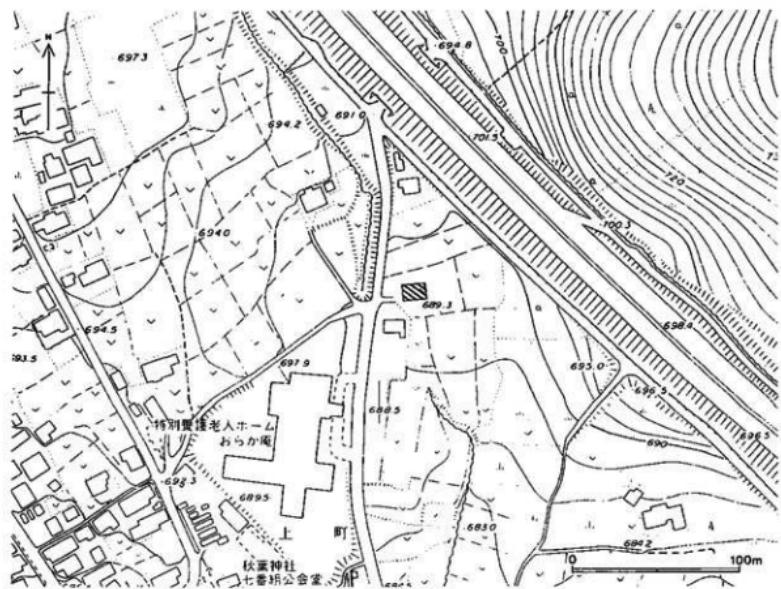
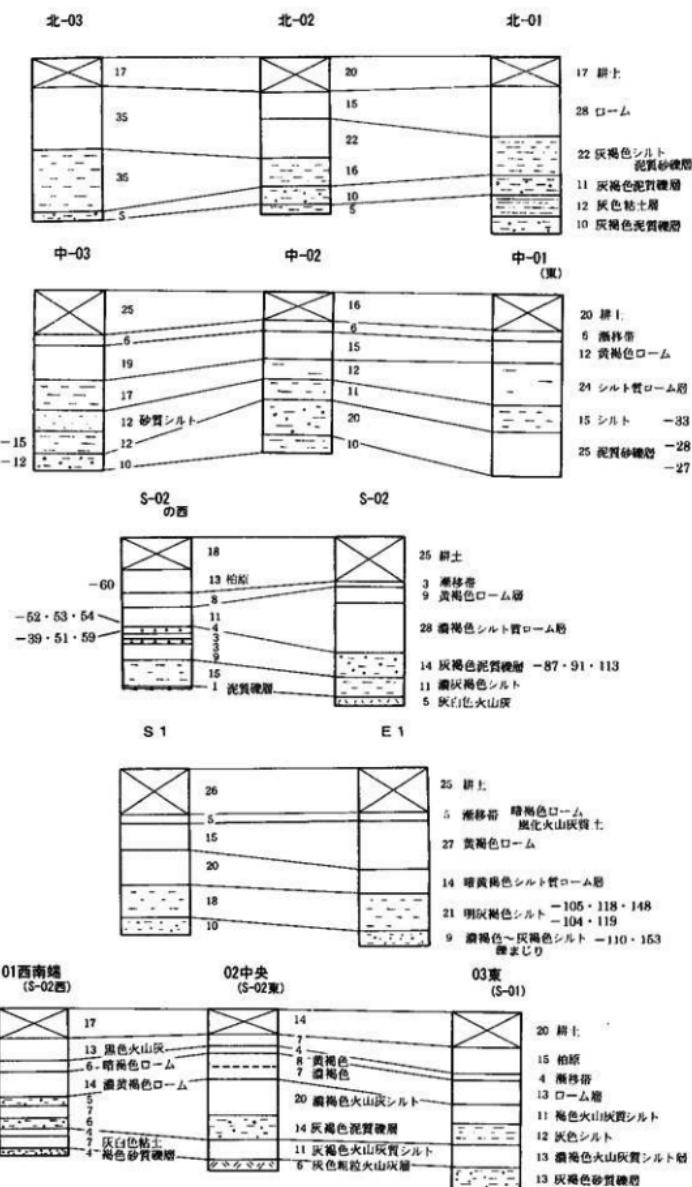


図 32 東裏遺跡中村(正)氏住宅地点の位置、遺物分布図



「-数字」は主な石器の出土層準を示す

図 33 東裏遺跡中村（正）氏住宅地点の地層

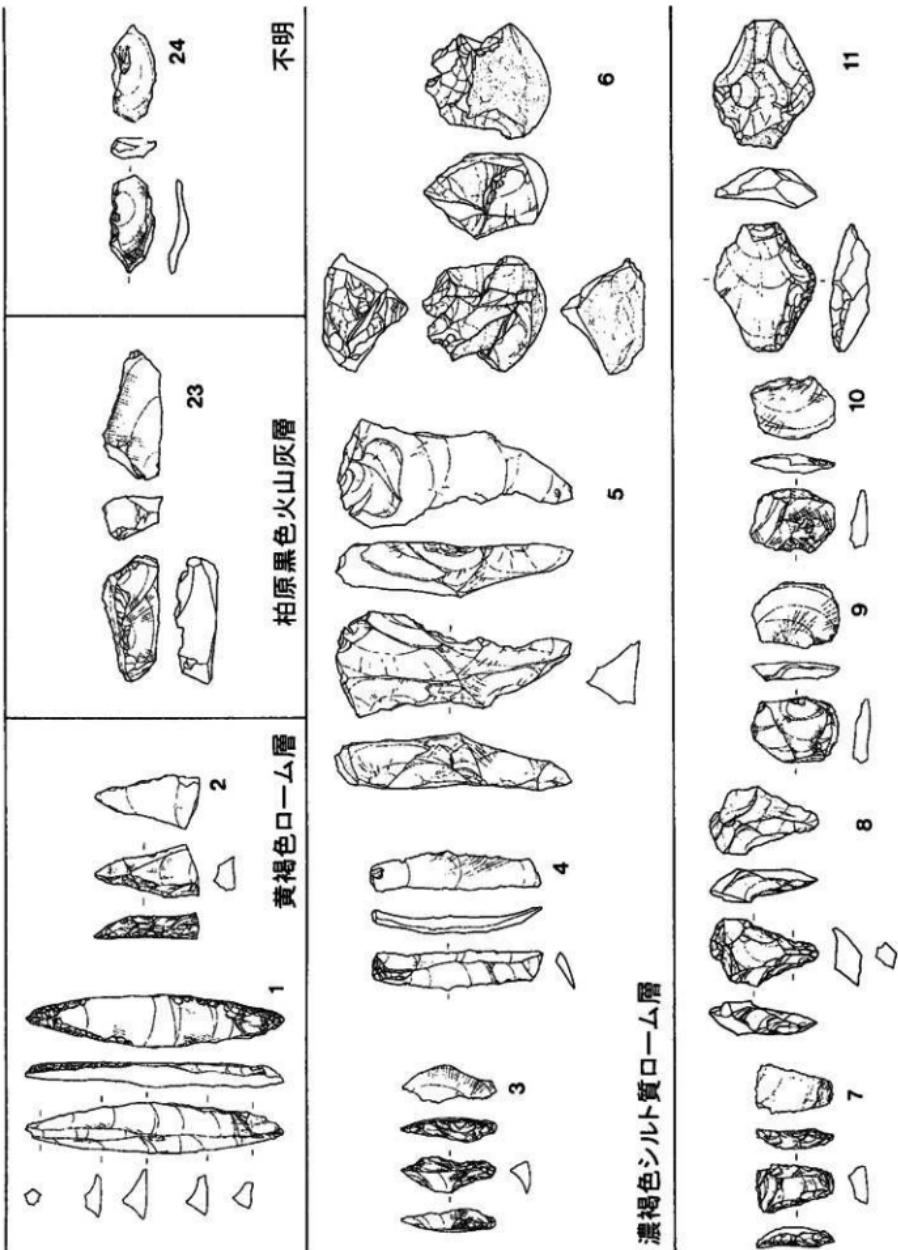


図 34 東裏遺跡中村（正）氏住宅地点出土の石器（1）

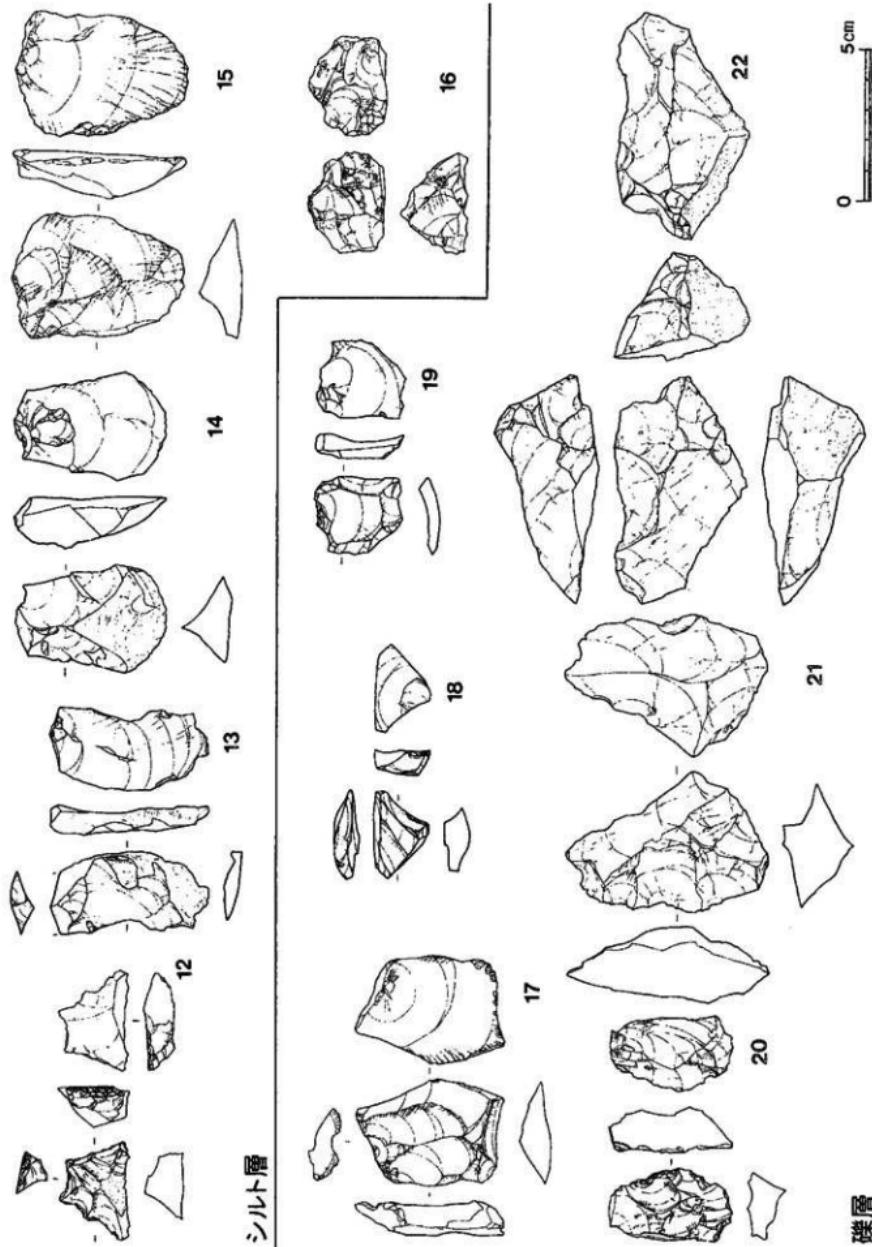


図 35 東裏遺跡中村（正）氏住宅地点出土の石器（2）

表 11 仲町遺跡大野氏住宅地点出土の石器・土器一覧

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
3	石刃	99仲大野-3	上Ⅱ最下部・下	無斑晶質安山岩	3.8	3.2	1.2	16.9	末端部折損品
4	石核	99仲大野-4	上Ⅱ最下部・下	チャート	9.4	8.5	6.0	540	
5	ナイフ形石器	99仲大野-5	上Ⅱ下部・下底	無斑晶質安山岩	5.8	1.4	0.7	5.6	
6	基部加工剥片	99仲大野-6	上Ⅱ最下部・下	白色燧灰岩	5.0	2.2	0.7	7.1	
21	剥片	99仲大野-21	上Ⅱ最下部・下	無斑晶質安山岩	5.2	4.4	1.7	40.6	

No	時期	文様・文様要素	繩維	遺物番号	備考
15	前期	竹管文		99大野-15	
19	前期	縄文		99大野-19	単箇(RL)

表 12 東裏遺跡中村（正）氏住宅地点出土の石器一覧

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	ナイフ形石器	99HU中村53	シルト層 ローム層	珪質凝灰質頁岩	8.5	1.7	0.8	9.8	
2	ナイフ形石器	99HU中村52	同	珪質凝灰岩	3.3	1.7	0.8	3.3	
3	ナイフ形石器	99HU中村39	同	黒曜石	3.0	1.2	0.7	1.6	
4	石刃	99HU中村51	シルト層 (泥質礫層)	黒曜石	5.6	1.4	0.4	2.5	
5	石核	99HU中村58	同	無斑晶質安山岩	7.8	3.4	1.7	35.5	
6	石核・剥片	99HU中村54 99HU中村59	同	赤色チャート	3.3 4.0	1.4 3.8	0.6 2.2	3.6 31.2	接合
7	台形（様）石器	99HU中村118	シルト層 (泥質礫層)	珪質凝灰質頁岩	2.5	1.6	0.6	2.5	
8	台形（様）石器	99HU中村113	同	無斑晶質安山岩	3.5	2.4	1.0	5.8	
9	剥片	99HU中村91	同	黒曜石	2.8	2.0	0.6	2.6	貝殻状刃器
10	剥片	99HU中村87	同	黒曜石	2.8	2.1	0.5	3.1	貝殼状刃器
11	台形（様）石器	99HU中村153	同	無斑晶質安山岩	3.3	4.1	1.2	13.5	
12	スクレイパー	99HU中村15	同	珪質凝灰質頁岩	2.4	3.3	1.3	7.8	
13	剥片	99HU中村33	同	黒曜石	5.3	2.7	0.9	8.0	
14	剥片	99HU中村148	同	珪質凝灰質頁岩	5.0	3.5	1.5	20.7	
15	剥片	99HU中村110	同	珪質凝灰岩	5.6	4.1	1.5	26.7	
16	石核	99HU中村105	同	黒曜石	2.7	3.2	2.5	14.6	No20と接合
17	剥片	99HU中村11	同	珪質凝灰質頁岩	5.0	3.5	1.1	17.2	
18	台形（様）石器	99HU中村119	同	黒曜石	1.9	2.8	0.8	2.8	
19	剥片	99HU中村12	同	青灰色チャート	3.0	2.6	0.5	4.4	
20	石核	99HU中村27	同	黒曜石	4.0	2.4	1.4	11.0	No16と接合
21	石核	99HU中村28	同	無斑晶質安山岩	6.7	4.6	2.6	45.7	
22	石核	99HU中村104	同	無斑晶質安山岩	4.5	7.5	3.1	73.7	
23	石核	99HU中村60	柏原黑色 火山灰層	黒曜石	1.8	4.2	1.2	8.9	
24	横長剥片	99HU中村工事	シルト層 (泥質礫層)	黒曜石	1.4	3.1	0.3	1.4	

表 13 仲町遺跡、東裏遺跡個人住宅地点等の出土遺物点数

	石器	土器	繩	その他			合計
				磁器	陶器	魂	
佐藤義徳氏 住宅	40	13	5				58
池田清孝氏 住宅	5		2	3	1	1	12
大野健氏 車庫	9	5	9				23
池田義一氏 住宅	2	6	2	1	2		13
野口一郎氏 車庫	3	2		1			6
佐藤志利氏 車庫	5	1	2	1			9
中村正武氏 住宅	124	2	46				172

写真図版1：仲町遺跡 塚本氏住宅地点



1 仲町遺跡塚本氏住宅地点 発掘地全景



2 発掘風景



3 造構の記録風景



4 地域の方々の見学（遺跡現地説明会 1999.5.23）



5 野尻湖小学校6年生の体験発掘（1999.5.17）

写真図版2：仲町遺跡 塚本氏住宅地点



1 平安時代の4号住居址全景



2 最初に試掘で遺構・遺物の分布状況を確認する



3 4号住居址の確認状況（色の黒い部分が住居跡）



4 発掘風景 住居址内からは土器が多く出土



5 4号住居址の覆土 焼土がみられる

写真図版3：仲町遺跡 塚本氏住宅地点



1 平安時代の3号住居址全景



2 3号住居址のかまど



3 3号住居址の確認面

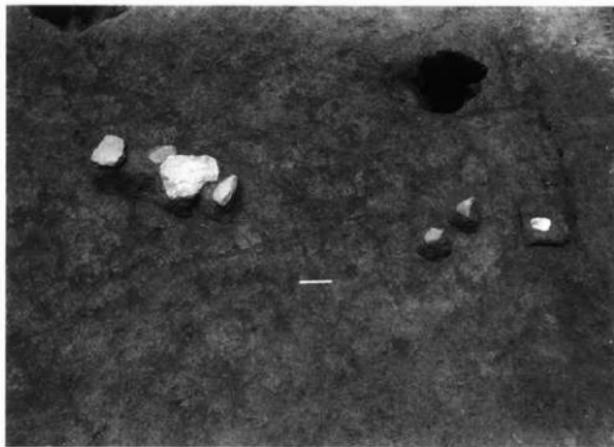


4 4号住居址西側の小遺構

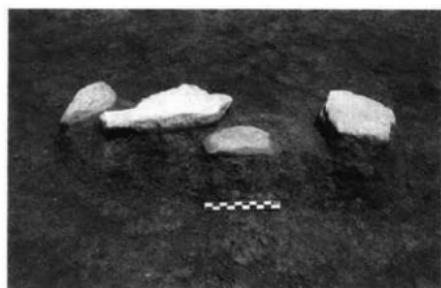


5 発掘参加者と野尻湖小学校6年生

写真図版4：仲町遺跡 塚本氏住宅地点



1 配石遺構 上Ⅱ最下部文化層



2 配石遺構 上Ⅱ最下部文化層



3 台形石器



4 台形石器



5 台形石器



6 ナイフ形石器

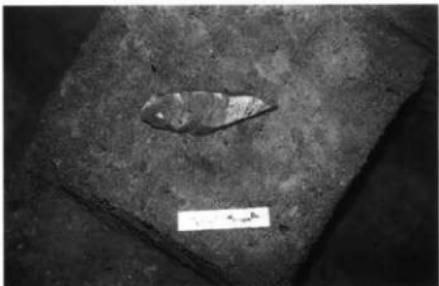
写真図版5：仲町遺跡 塚本氏住宅地点、佐藤氏住宅地点ほか



1 塚本氏住宅地点の地層



2 佐藤氏住宅地点の発掘風景



3 佐藤氏住宅地点 基部調整ナイフ形石器



4 池田氏住宅地点 試掘風景



5 野口氏住宅地点 試掘風景

写真図版 6：仲町遺跡 大野氏住宅地点ほか



1 大野氏住宅地点 全景



2 大野氏住宅地点 発掘風景



3 大野氏住宅地点 遺物出土状況



4 大野氏住宅地点 旧石器時代の石核



5 大野氏住宅地点 層位



6 小林氏住宅地点 試掘風景



7 小林氏住宅地点 調査地全景



8 小林氏住宅地点 層位

写真図版7：東裏遺跡 大久保A遺跡、試掘調査



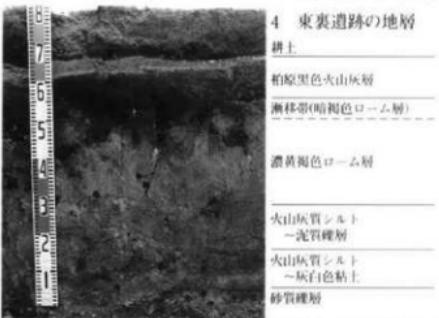
1 東裏遺跡 発掘風景



2 東裏遺跡 発掘風景



3 東裏遺跡 発掘地全景



4 東裏遺跡の地層
耕土



5 大久保A遺跡 調査地全景



6 大久保A遺跡 試掘風景

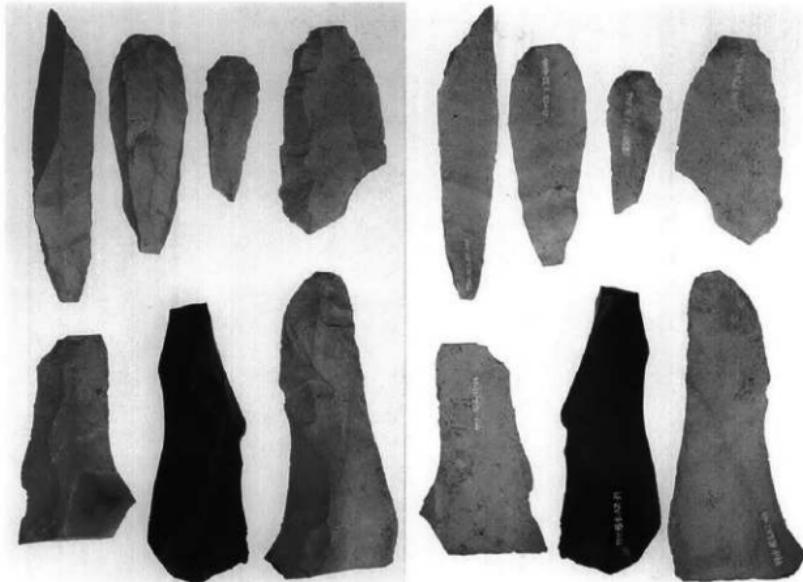


7 小丸山公園遺跡 試掘調査

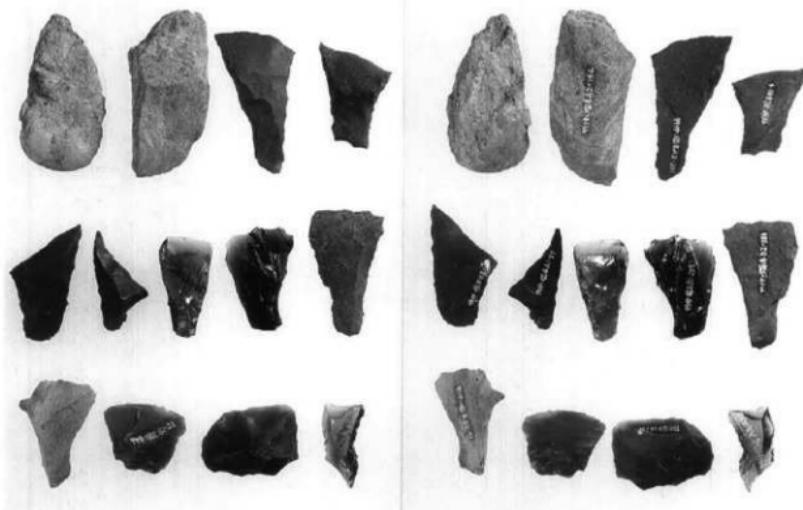


8 東裏遺跡 試掘調査

写真図版8：仲町遺跡 塚本氏住宅地点出土の石器



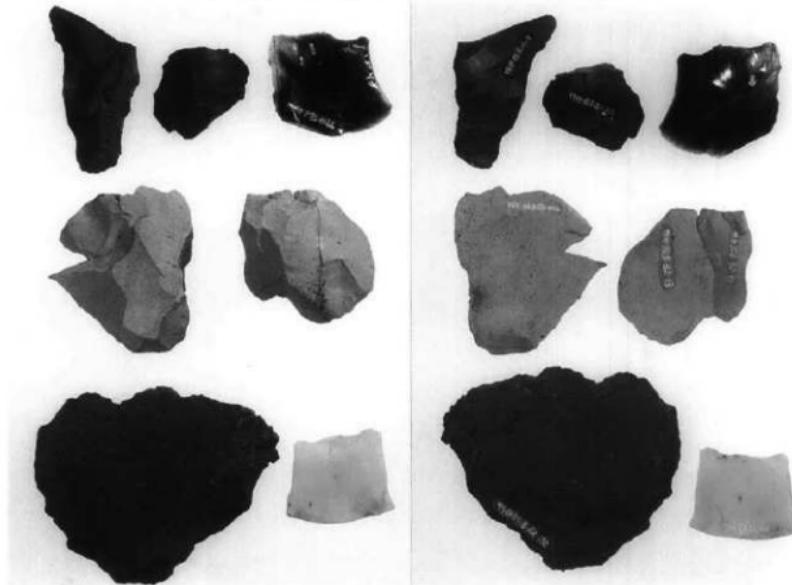
1 ナイフ形石器、石刀（1～11）



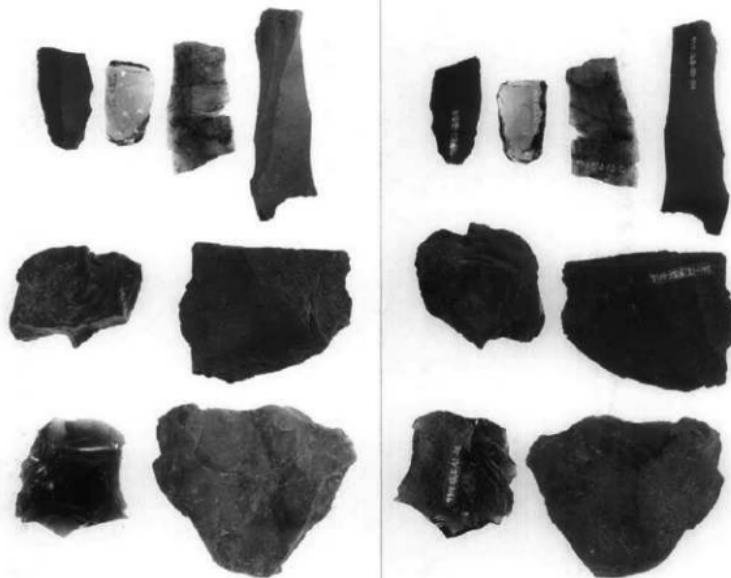
2 局部磨製石斧、台形（様）石器（18～30）

0 5cm

写真図版9：仲町遺跡 塚本氏住宅地点出土の石器



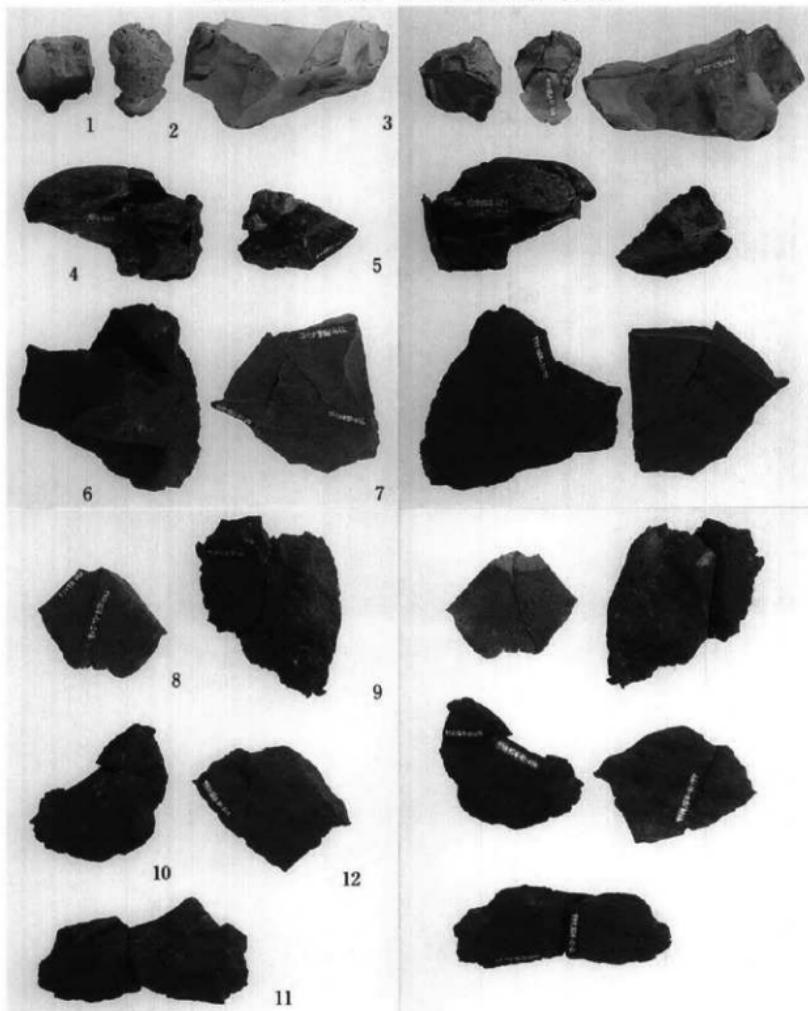
1 スクレイバー、ヘラ形石器 (31~37)



2 ナイフ形石器、石刀 (上)、石核 (下)

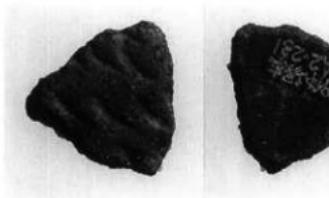
0 5cm

写真図版10：仲町遺跡 塚本氏住宅地点出土の石器



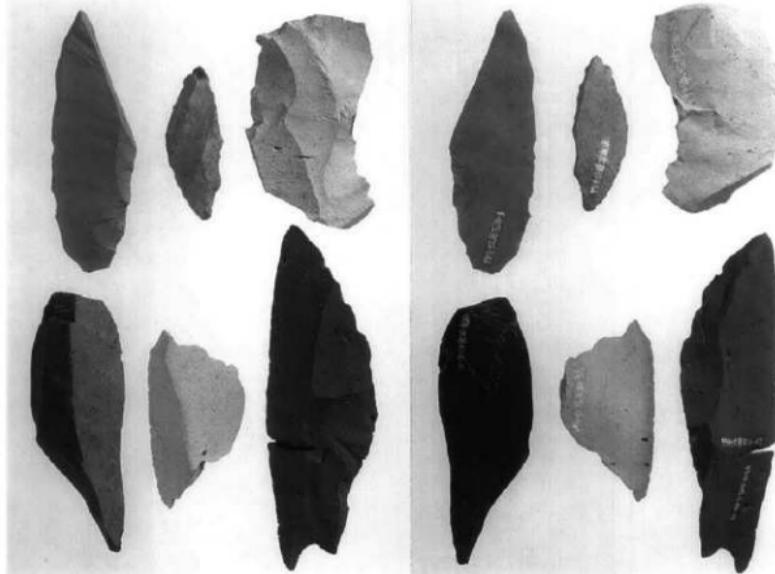
1 接合資料

0 5cm

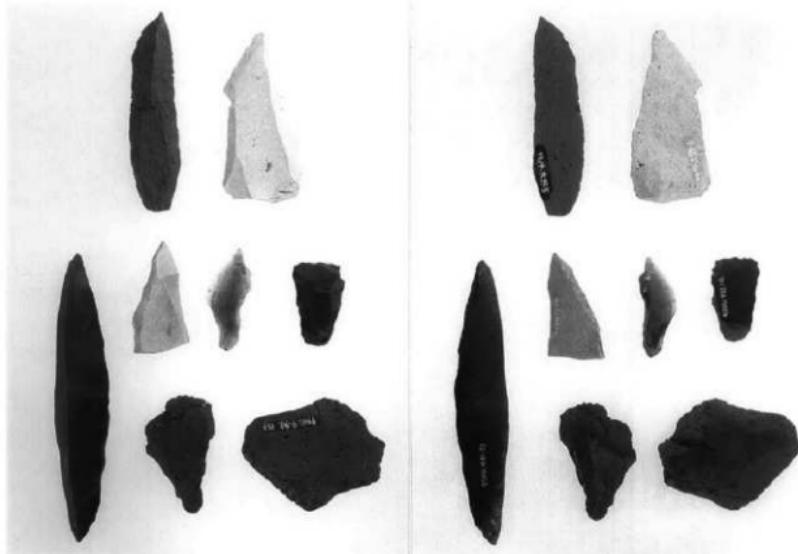


0 1cm
2 爪形文土器

写真図版11：仲町遺跡 佐藤氏住宅地点、東裏遺跡出土の石器



1 佐藤氏住宅地点 ナイフ形石器、石刀、剥片、横長剥片



2 大野氏住宅地点（上）ナイフ形石器、基部加工剥片：
東裏遺跡
(下) ナイフ形石器、台形（様）石器

0 5cm

報告書抄録

書名	仲町遺跡（個人住宅地点）ほか発掘調査報告書							
副書名	旧石器時代と平安時代住居址							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編著者名	中村 由克							
編集機関	信濃町教育委員会							
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923							
発行年月日	西暦 2000年3月20日							

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仲町遺跡 (坂本節子氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 44秒	138度 12分 19秒	19990426～ 19990603	100	個人住宅
仲町遺跡 (佐藤範征氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 34秒	138度 12分 11秒	19990420～ 19990511	60	個人住宅
仲町遺跡 (大野健氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 38秒	138度 12分 20秒	19990628～ 19990702	72	個人住宅
東裏遺跡 (中村正武氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 21秒	138度 12分 30秒	19990517～ 19990604	105	個人住宅
仲町遺跡 (池田義一氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 38秒	138度 12分 16秒	19990406～ 19990526	118	個人住宅
仲町遺跡 (池田清孝氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上町	205834	40	36度 49分 44秒	138度 12分 24秒	19990621～ 19990622	132	個人住宅
仲町遺跡 (野口一郎氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 41秒	138度 12分 18秒	19991008	34	個人住宅
仲町遺跡 (佐藤志利氏 住宅地点)	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字上ノ原	205834	40	36度 49分 34秒	138度 12分 11秒	19991026～ 19991029	54	個人住宅
大久保A遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字大久保	205834	58	36度 49分 02秒	138度 12分 12秒	19990512～ 19990513	446	個人住宅
小丸山公園遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字小丸山	205834	68	36度 48分 21秒	138度 12分 14秒	19991129～ 19991130	82	公園整備 試掘調査
針ノ木遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字富澤字針ノ木	205834	98	36度 48分 25秒	138度 13分 26秒	19990526	5	町道建設 試掘調査
東裏遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 13秒	138度 12分 34秒	19990819～ 19990820	220	排水処理施 設試掘調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仲町（塚本氏住宅地点）	散布地	旧石器時代 縄文時代 草創期 早期 平安時代	配石遺構 住居址 2軒	総出土点数 1,614点 石器（旧石器） 316点 縄文土器 33点 平安土器 1,113点	後期旧石器時代前半の台形石器、局部磨製石斧などの石器群が集中して出土した。縄文草創期の爪形文土器が単独出土。また、平安時代の住居址 2軒が発掘された。
仲町（佐藤氏住宅地点）	散布地	旧石器時代 縄文時代	なし	総出土点数 58点 石器（旧石器） 40点 縄文土器 13点	後期旧石器時代前半の基部調整ナイフ形石器とともに横長剥片が出土した。
仲町（大野氏住宅地点）	散布地	旧石器時代 縄文時代	なし	総出土点数 23点 石器（旧石器） 9点 縄文土器 5点	後期旧石器時代前半の基部調整ナイフ形石器、石核が出土した。
東裏（中村氏住宅地点）	散布地	旧石器時代	なし	総出土点数 172点 石器（旧石器） 124点 縄文土器 2点	後期旧石器時代前半の台形石器の石器群が出土

このほかの個人住宅、試掘地点については、出土品が少なく、特記事項等は特にない。

S U M M A R Y

The Nakamachi site is located at Nakamachi and Kanmachi Nojiri, Shinano-machi, in the northern end of Nagano prefecture, Central Japan. It is situated in lat. 36°49'44"N., long. 138°12'19"E., and is 681 meters above sea level. The site is located at the top of the Nakamachi hill on the west shore of the Lake Nojiri area. The excavation was carried out from April 26 to June 3 in 1999, by the Shinano Town Board of Education, prior to the construction of a house. The total excavation area is about 100 square meters.

The Late Quaternary sediments are divided into 3 formations as follows; Nojiri Loam Formation, Kashiwabara Black Ash Formation, and surface soil, in ascending order.

The remains that totaled 1,614 were excavated from two cultural layers, the Upper Nojiri Loam Formation (Pleistocene) and the Kashiwabara Black Ash Formation (Holocene). There were 344 pieces of Palaeolithic stone tools, 33 pieces of Jomon pottery, 1,113 pieces of Heian age pottery and so forth.

Most of the artifacts from the Nakamachi site belong to the Palaeolithic Period, the Incipient Jomon Period, the Initial Jomon Period, and Heian Period. The results of the excavation are as follows.

1. Late Palaeolithic Period (about 30,000 ~ 25,000 y.B.P.)

Among the 433 pieces of stone tools and fragments found, most of them belong to the early half of the Late Palaeolithic Period. Trapezoid, partially ground chipped stone axes were yielded from the Black band of the Upper Nojiri Loam Member I.

2. Incipient Jomon Period (about 12,000 y.B.P.)

A nail-impression pottery (Tsumegata-mon pottery) found, belonging to the Incipient Jomon Period.

3. Initial Jomon Period (about 7,000 y.B.P.)

Among the 32 fragments of pottery found, most of them belong to the later half of the Initial Jomon period.

4. Heian age (about 1,150 y.B.P.)

Two pit-dwellings yielded 1,113 fragments of pottery, belonging to the early stage of the Heian Period.

5. The other sites

The other locality of the Nakamachi site and the Higashidura site were excavated in 1999.

表紙写真説明

仲町遺跡 台形石器と局部磨製石斧のセット、爪形文土器

左端の石器の大きさ 44 mm

後期旧石器時代の前半、縄文時代草創期

信濃町の埋蔵文化財

仲町遺跡（個人住宅地点）ほか
発掘調査報告書

－後期旧石器時代前半と平安時代の遺跡－

編集発行 信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 2000年3月20日

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

【この報告書についての連絡先】

野尻湖ナウマンゾウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090

FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

Nakamachi Site

The early half of the Late Palaeolithic Age and the Heian Age

2000

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.